

第 22 回長野工業高等専門学校参与会 議事概要

日 時 令和 8 年 2 月 2 6 日 (木) 13:30~15:30

場 所 長野工業高等専門学校 A201 会議室

出席者 (敬称略)

参与: 香山瑞恵 (会長)、丸山陽一、池田明、渡辺雅義、平林靖久、清水まさみ

本校: 早瀬伸樹 (校長)、渡辺誠一 (副校長 (教務主事))、奥村紀浩 (副校長 (学生主事))、酒井美月 (副校長 (寮務主事))、藤澤義範 (副校長 (専攻科長) / 進路支援室長)、楡井雅巳 (副校長 (総務主事) / 第三者評価対応委員会委員長 / 広報企画室長)、田中秀登 (副校長 (研究主事) / 地域共同テクノセンター長)、元井洋一 (副校長 (事務部長) / 技術支援部長)、春日貴志 (系長 (工学科情報エレクトロニクス系) / 高速信号伝送評価センター長)、堀口勝三 (系長 (工学科機械ロボティクス系) / ソーシャルイノベーション・サポートセンター長)、浅野憲哉 (系長 (工学科都市デザイン系))、濱口直樹 (院長 (工学科リベラルアーツ教員院) / 教学 IR 室長)、北山光也 (学生相談室長)、中山英俊 (入試広報室長)、相馬顕子 (男女共同参画室長)、藤田悠 (情報教育センター長)、花岡大生 (技術教育センター長)、小宮山真美子 (国際交流センター長)、西川嘉雄 (都市デザイン系教授)、福井郁夫 (総務課長)、中嶋広隆 (学生課長)、金井隆英 (総務課課長補佐 (総務))、白木順子 (総務課課長補佐 (財務))、長井俊之 (学生課課長補佐)、齊藤大起 (総務課総務企画係長)

1. 開会 総務課長
2. 会長・副会長紹介 総務課長
3. 自己紹介 (各参与・長野高専出席者)
4. 校長あいさつ

本日は参与の皆様方には、ご多用のところご参集いただきまして、誠にありがとうございます。また、日頃より本校の教育・学校運営に多大なるご支援を賜っておりますこと、厚く御礼申し上げます。

長野高専は、これまで約 1 万名の卒業生を社会に送り出してまいりました。卒業生は長野県内をはじめ、全国各地の第一線で活躍されており、本校の産学連携の促進や教育・研究にも大きな力を貸していただいております。

しかし、本校を取り巻く環境に目を向けますと、15 歳人口の減少を筆頭とする少子高齢化の進行、さらには高校の授業料無償化など、非常に大きな変化の波が押し寄せております。こうした急激な変化に対応し、かつ近年の複雑化・高度化する産業構造や技術の多様化に応えられる人材を育成するため、本校では教育内容の充実と学校運営の絶え間ない改善に取り組んでいるところでございます。

本日の議事でもご報告いたしますが、今年度、本校は学校教育法で定められた『機関別

認証評価』を受審いたしました。これは少なくとも7年に一度は受審が義務付けられているもので、教育の質の保証を担保するために極めて重要な取組です。本校ではこれに加え、独自の自己点検や外部視点での点検も重視しており、この『参与会』もその重要な柱の一つと位置付けております。本日皆様から頂戴するご意見は、社会や地域のニーズを本校の教育・運営に反映させるために欠かせないものと認識しております。

また、本校は令和4年度に従来の5つの学科を1つの『工学科』へと統合・改組し、新たな体制で教育を進めてまいりました。来年度、この改組後の1期生が5年生となる『完成年度』を迎えます。新しいカリキュラムでは、地域課題の解決を図る実践的な教育や、長野県の歴史・文化を学ぶリベラルアーツ教育などを積極的に取り入れております。さらに現在、その先を見据えた『さらなる学科改組（新系の設置）』についても検討を進めております。本日は、これらの内容についてぜひ忌憚のないご意見を賜り、これからの長野高専の運営の糧とさせていただければ幸いです。どうぞよろしくお願い申し上げます。

5. 配付資料確認

6. 議事

香山会長から、令和8年度の学科改組完成を見据えた重要な時期であるとの認識が示され、本会において教育研究の状況を共有し、忌憚のない意見交換を行いたい旨の挨拶があった。

以下、参与会設置要項第7条第1項の規定により香山会長が議長となり、次第に沿って議事が進行された。

1) 受験者数・入試広報への取組

渡辺教務主事： 本校の現状と入試広報の取組についてご報告します。令和4年度の学科改組により、従来の5学科から定員200名の1学科（工学科）へと統合し、2年進級時に3つの系を選択する『くくり入試』を導入しました。しかし、令和5年度以降の入試倍率は減少傾向にあります。特に推薦選抜は定員120名に対し受験者が110名台と1倍を若干割る状況が続いており、学力選抜も本年度（令和8年度入試）は1.16倍まで下がっています。

この危機的状況に対し、従来の広報企画室とは別に『入試広報室』を立ち上げ、専門的な活動を強化しています。具体的には、オープンキャンパス（春・秋）、学校説明会（対面・オンライン）、県外層へのアプローチとして東京・大阪の『国公立高専合同説明会（KOSEN FES）』への新規参加、さらに民間企業と連携した『高専模試』の学内実施、LINEを活用したSNS発信など、これまでにない攻めの広報を展開しています。

また、令和9年度入試より推薦選抜の出願要件を緩和・追加する予定です。現在は一律『評定合計36以上』としていますが、これに加えて『評定34以上かつ数・理・

英の3教科合計が13以上』という、理数系に秀でた学生を拾い上げる基準を新設します。シミュレーションでは20~30名程度の志願者増が見込まれ、専門分野に強い意欲を持つ学生の確保を期待しています。

さらに、本校としてのもう一つの大きな狙いは、学力選抜において現状から『2倍程度』の志願者を確保することにあります。倍率を2倍程度まで引き上げることで、より学力の高い上位層の学生を確保することが可能となります。そうした質の高い学生層を厚くすることで、入学後によりしっかりと専門分野の勉強に取り組んでもらえる環境を作っていきたいと考えています。

香山会長： 資料にある中学校訪問について伺います。これは学生が母校を訪問して、中学生に対して直接アピールするような場も設けられているのでしょうか？

渡辺教務主事： 実際には学生から母校訪問の希望者を募っています。授業の関係上、夏休みに元担任の先生を訪ねて資料を渡す程度に留まっており、中学生への直接の呼びかけは十分にできていないのが現状です。教員による訪問では、一部の中学校で進路講話の機会をいただき、長野高専の紹介を行っています。

香山会長： 学生が中学生に直接アプローチする効果は非常に大きいと感じます。せっかく母校を訪問するのであれば、部活動に顔を出すなど、高専の魅力をより生の声で伝えられる活動になると良いですね。

渡辺参与： 長野県は製造業、観光業、農業が産業の柱であり、その中で高専は非常に重要なポイントだと思っています。先日、製造業のトップの方とお話しした際、『子供の意識は小学校5年生頃にはもう固まっている。中学生からでは遅い。小5、あるいはもっと前から長野県の製造業に関心を持たせなければならない』というお話を伺いました。現在、長野高専では入試を受ける中学3年生をメインに広報されているかと思いますが、より将来を見据えて、もっと早い段階の子供たちに『こういうことをやっているんだ、僕もあそこに行きたい』と思わせるような科学や工学に触れる取り組みについては、どのようにお考えでしょうか。

渡辺教務主事： ありがとうございます。今回ご報告したのは『入試広報』としての取り組みですが、それとは別に本校の『広報企画室』が中心となり、『サイエンスツアー（出前授業）』という名称で活動を行っています。

これは本校の教員が地域の様々な場所に出向いて、科学イベントや工作、実験授業を行うものです。特に工作イベントなどでは、多くの場合、保護者の方も一緒に来られます。その場で親御さんとお話しする中で、『こんなものづくりをしているんですね、高専に行かせたいです』といった声を直接聞く機会も増えています。

私事ですが、私の息子の友達が、授業参観の折にわざわざ親御さんの前で『高専に行きたい』と言ってくれたことがあり、あまりの嬉しさに涙が出そうになりました。こうした『高専ファン』は小学生の間にも確実にいらっしゃいます。親子で参加してもらうことで、高専について対話する機会はさらに増えると確信しています。本校と

しても、今後より積極的に学外へ出向き、また学校へも来ていただく機会を設けていきたいと考えています。

平林参与： ありがとうございます。私は一般論と、あと経営者協会という立場ですの
で、色々な会員企業、あるいは以前在籍していたエプソンの社長らとも話をする中
での実感を申し上げます。

おそらく皆様も気がついていると思いますが、今、理系の人間が極端に減っていま
す。小学校に上がる時点ですでに『算数嫌い』が始まり、中学では数学、高校に行っ
たらそのレベルの差がさらに大きく開いています。これは教育委員会の教育長とも話
をしましたが、現場はもう危機的な状態だということです。特に工学系の中でも、『電
子』なんて名前がつけばまず嫌われます。大学も含めて、そこに希望を出す子が極端
に減っている。我々の世代のように『電気・電子は花形』だった時代とは大きく様変
わりしてしまいました。

今の世の中、AIやDXと盛んに言われるようになる以前から、ある動きがありま
す。それは、製品を『作った』のは人間なのに、世の中はそれを『使う』楽しみしか
知らない人間ばかりが増えてしまったということです。使うだけであれば理系・文系
関係なく使えてしまいますから。そうすると、ものづくりを志す子供はますます減
り、深刻な社会問題になっています。

そこで私が経営者協会としてずっとやりたかったことで、今、教育委員会とも個別
に話を進めているのが、『地元の優れた企業を知るための繋がり作り』です。長野県に
は、部品を作っているものすごく優秀な会社がいっぱいあります。しかし、子供たち
も親もその存在を知りません。例えばセイコーエプソンのようにコンシューマー向け
の商品があれば知っていますが、ある有名な車が、実は県内のある企業の技術がなけ
れば完成しなかったといった事実はあまり知られていない。コンシューマー（消費
者）に近い部分だけでなく、もっと学校教育の場に企業が入り込み、子供たちに技術
の楽しみを伝えていかなければならないと考えています。

その前提となるターゲットは、小学校・中学校です。先ほど『小5の壁』の話もあり
ましたが、まさにその世代の子供たちに、技術の楽しみを学ばせていかなければな
りません。中3だけを対象にするのではなく、高専さんも数学や理科の面白みを教え
る場をもっと作ってください。子供たちは能力を持っていますから、一度面白みを感じ
たらとことんやってくれます。教育委員会もようやく動こうという気配が出てきま
した。

長野高専ができた当時は、日本が右肩上がり成長し、ものづくりが重要だという
ことで全国に国立高専が整備されました。しかし、今は時代が大きく変わっていま
す。改めて、長野高専という立場をゼロから作り変えるくらいの覚悟で取り組んでも
らわないと、子供は減り、理系離れが進む現実に向かえません。数学や理科のち
よとした面白さを、高専の先生や学生さんが子供たちに教える場があっという。経

営者協会の会員で協力できる会社があれば、いくらでも働きかけをします。高専さんともぜひ連携したい。何もしていないわけにはいかない、何かをやらなければならないと、非常に迷いながらも危機感を持っています。ぜひ、やれるところから取り組んでいただきたい。

渡辺教務主事： ありがとうございます。ちょうど先ほど出前授業の話をさせていただいた中で、ものづくりなどの話は小中学生を対象にやっておりますが、理系科目全般の面白さを教えるといった発想はなかなか持てていなかったものですから、今のご意見を参考にさせていただき、少しでも興味を持っていただけるような機会を今後考えていきたいと思っております。ありがとうございました。

池田参与： 推薦入試の基準について、非常に懸念している点があります。今の基準（評定 36 以上）では、全教科満遍なく点数を取らなければならない、結果として入学してくるのは『大学編入を目指す優等生』ばかりになりませんか。

私は、多少他の教科が苦手でも『俺は将来技術屋になりたいんだ』という強い意志と尖った才能を持つ学生を採用してほしいのです。中学校で『あいつは少し変わっているけれど、数学だけは凄い』と言われるような子が、評定のハードルで足切りされてしまうのは、技術教育の場として非常にもったいない。今の入り口のハードルを下げ、目指したい人が入れる仕組みにしないと、本来高専が育てるべき『現場の技術者』が確保できません。

渡辺教務主事： 貴重なご意見ありがとうございます。推薦の追加基準（34 以上かつ数理英 13 以上）はまさにその層を拾うための第一歩ですが、実際に実施した結果を見極め、さらなる基準の見直しが必要か継続して検討してまいります。

香山会長： 15 歳人口が減る中で、これまでと同じ層を狙っては、志願者は増えません。池田参与がおっしゃるように、違う層でキラキラ光る学生を見つけ、入学後にその能力を伸ばすという視点が必要ですね。

2) 新系設置構想

渡辺教務主事： 昨年度の参与会でも検討状況を報告しましたが、現在本校では、志願者減少への対策および地域ニーズへの対応として、『物質・バイオ系』を含む『情報 70 名・機械 70 名・都市 40 名・物質バイオ 20 名』の 4 系体制とする案を検討しています。教育内容については、高専機構のモデル・コアカリキュラムを満たしつつ、長野県の強みである農業・食品分野を意識した『フードサイエンス』等の科目を開設し、さらに既存 3 系の専門知識も副専攻として学べる材料系総合学科を目指します。

ただし、『建物（ハコ）がない』という大きな課題があります。既存の化学実験室を転用し、空きスペースを教員室や卒研室に充てるなどの苦肉の策を検討中ですが、インフラ整備と予算（最大 10 億円規模の支援事業申請など）の確保が大きなハードルとなっています。

新系設置のまとめとして、まずは議論の契機である「女子志願者増」が本構想によって真に実現されるのか、原点に立ち返り検証する必要があります。また、少人数の教員で専攻科まで安定運営できるかという点に加え、専用の「建物がない」ことによる施設整備と多額の予算確保も依然として大きなハードルです。地域に根差した独自性を追求する一方で、校内からは新系設置よりも既存3系をAI等の成長分野へ発展させるべきとの意見も根強く、現時点では意見が集約しきれていないのが正直な現状です。

香山会長： 一点、制度面で気になります。長野高専は1学科で入学し、2年進級時に系を選択する『レイト・スペシャライゼーション』を採用していますが、この仕組みだと、希望の系（例えば情報系）に成績順等で入れず、本意ではない系（例えば都市系や新設の物質系）に配属された学生のモチベーション維持が非常に難しい。実際に、入学時点で志望が固まっていない学生が4割もいる一方で、希望が通らなかった時の不安を漏らす中学生もいます。志願者が落ち込んでいる中で、新系を作ることが本当に『入り口の魅力』に直結するのか、慎重な調査が必要です。

池田参与： 将来の産業構造を考えた時、単なる「加工」だけではいずれ立ち行かなくなると危惧しています。これからは機械そのものを作るだけでなく、そこから生み出されるもの、つまり「材料」や「消耗品」をセットで考える視点が不可欠です。

例えば成形機一つとっても、どのような素材を使い、環境に配慮した素材をいかに成形するかといった課題には、化学的な知識が欠かせません。単なる加工技術だけで勝負するのではなく、日本や長野県の中でこうした材料分野の技術を確立していかなければ、製造業としての優位性を保つことは難しいでしょう。その観点から、高専が化学・材料系の知識を強化していくという方向性には非常に大きな意義があると感じています

平林参与： 産業界の感覚から言えば、『化学』は非常に重要です。今の日本の製造業の真の強みは、実は加工ではなく『材料』にあります。半導体分野でもTSMCなどが脚光を浴びていますが、あれはあくまで『加工（印刷）』の領域です。その大元となるフォトレジストなどの材料や消耗品こそが、日本が世界に対して圧倒的な優位性を保っている分野であり、その基本はすべて化学なのです。

将来の産業構造を見据えた時、単なる機械加工の技術だけではいずれ限界がきます。どのような素材で成形し、いかに環境に優しい材料を使いこなすかといった『材料の知識』は、今後のものづくりにおいて不可欠な要素となります。ですから、本校が化学・バイオ系を強化するという方向性自体は、産業界のニーズに合致しており、間違いなく正しいと言えます。

ただ、非常に懸念しているのは『専門を決めるタイミング』です。例えば東京大学のような大学でも、進学振分け（進振）に1年半もの時間をかけ、じっくりと自分の専門を見定めます。それを考えると、中学を卒業したばかりの15歳、あるいは入学後

わずか1年の段階で決断させるのが本当に妥当なのかは、慎重に考えるべきでしょう。

今の日本の大手企業では、求められる基礎知識の高度化により、採用の主流が学士から修士（マスター）へとシフトしています。そんな中で高専卒業生がこれまで高く評価されてきた理由は、専門に凝り固まりすぎず、頭が柔らかいうちに培われた『応用力』や『柔軟な発想』にあります。以前在籍していたセイコーエプソンでは「高専生を最優先で採れ」と指示していたほどです。あまり早い段階で狭い専門の枠に押し込めてしまうことが、企業が求めるこうした柔軟さを損なうことにならないか。化学という分野の重要性は認めつつも、学生がその適性を見極めるプロセスについては、教育的な配慮が必要だと思います。

丸山参与： 単に「女子学生を増やしたいから新系を作る」という動機だけでこの構想を突っ走ることに、再考の余地があると感じます。

今、国や県では大きな高校改革が進んでおり、2040年までに文系と理系の比率を半々にしようという目標も掲げられています。その中で真に求められているのは、単なる数合わせではなく、社会に「理系イノベーションを起こせる人材」をいかに育てるかという視点です。

少子化により15歳人口が激減する中、実は私自身も市立高校を預かる立場として、志願倍率の低下という厳しい現実と直面しています。これはもはや学校の魅力云々以前に、母数そのものが減っているという「生き残り」の問題です。近隣にある長野高専さんと市立高校の間で、結果として「生徒の取り合い」のような形になってしまうことも、今の時代、避けられない現実として受け止めなければなりません。

中学生の圧倒的多数は、まずは普通科高校へ進み、大学進学の間で進路を決めようと考えます。中学を卒業する段階で「技術の道で生きていく」という確固たる信念を持つ生徒は、実際にはそれほど多くありません。

だからこそ、高専が生き残るためには、県全体でどのような学びを提供し、どんな人材を輩出するのかという高い視点が必要です。本校が検討している新しい系が、中学生にとって本当に魅力的な受け皿になり得るのか、市中の中学校ともしっかりと連携し、保護者や生徒が求めている学びのニーズをまずは徹底的に吸い上げていただきたい。その上で、信州大学さんや我々教育委員会とも協力し、地域全体で理系人材を育てる体制を構築していくべきだと考えます。

清水参与： 女子学生を増やしたいというのが大前提とのことですが、実際に現在入学してきている学生や、入学を希望している中学生に対して、『化学の学科があったら勉強したいか』という具体的なアンケートは実施されているのでしょうか？ 地域のニーズが不透明なままハコや設備に予算を投じるのは、後援会の立場としても気になるところです。まずは県内の需要、例えば信大の理学部化学系などの男女比なども参考に、しっかりと裏付けを提示していただきたい。

3) 自己点検（全体）

楡井総務主事： 本校における自己点検・評価の実施状況についてご報告します。自己点検は法令等で義務付けられており、本校では3年間で全項目（全体像）を網羅できるようサイクルを組んで実施しています。お手元の資料3-2『自己点検評価表』には、令和7年度の第4四半期までの暫定結果をまとめております。本日はその中から、特に『項目8：地域連携』と『項目9：財務・管理運営・情報公開』に絞って重点的にご説明します。

まず項目8の地域連携ですが、本校の地域共同テクノセンターと『長野高専技術振興会』が連携した活動は、全国の高専の中でも非常に活発であると高い評価をいただいています。しかし課題もあります。資料4ページをご覧くださいと、テクノセミナー等の参加者数が近年減少傾向にあります。企業側からは『複数企業向けの汎用的な講座だけでなく、自社のニーズに合わせた個別の内容をやってほしい』という強い要望をいただいています。これを受け、現在は『カスタマイズ型の出前講座』を試行中であり、企業の困りごとに直接応える形への転換を図っています。

次に項目9の財務面です。本校の年間予算は約4億円規模ですが、国からの運営費交付金は毎年約3%ずつ削減されるという非常に厳しい状況が続いています。この不足分を補い、教員の研究活動を維持するためには、科研費や企業との共同研究費といった『外部資金』の獲得が不可欠です。

また、情報セキュリティについては、全教職員にe-Learningやインシデント対応訓練を毎年繰り返し義務付け、体制を担保しています。情報公開についても、researchmapの更新やSNSの活用ルール策定など、タイムリーな発信を強化しています。

池田参与： 資料にある達成率の数値（75%や100%）や、自己評価の5段階数値は、具体的にどなたが決定しているのでしょうか？

楡井総務主事： まずは担当部署（各委員会やセンター）が一次的な自己点検を行い、数値を算出します。その後、それらの結果を『教育改善委員会』に集約し、3月に全体像として最終的な評価を固めるというプロセスを踏んでいます。

香山会長： 冒頭に校長先生から、7年に一度の大きな評価（機関別認証評価）があるとお聞きしましたが、この毎年の自己点検はそのための蓄積という理解でよろしいですか？

楡井総務主事： 毎年PDCAを回して改善を積み重ねているか、そのプロセス自体が7年ごとの認証評価で厳しくチェックされることとなります。本年度がちょうどその評価の年にあたりますので、次の議題でその結果をご報告します。

4) 機関別認証評価受審報告

楡井総務主事： 本年度受審いたしました『機関別認証評価』の結果についてご報告します。この評価は、学校教育法に基づき7年ごとに一度受審することが義務付けられているもので、本校は独立行政法人大学改革支援・学位授与機構による審査を受けました。本年度はちょうど『4巡目』のサイクルの初年度にあたります。

まず、前回（平成31年受審時）の指摘事項と、それに対する本校の改善状況を整理します。前は主に2つの領域で指摘を受けました。

- 領域1（内部質保証）：自己点検の基準・項目設定が不十分である点、およびアドミッション・ポリシー（AP）において『入学者選抜の基本方針』が不明瞭であるとの指摘がありました。
- 領域5（教育活動）：一部の科目で試験問題が数年にわたり使い回されている点や、成績評価の不透明さが指摘されました。

これに対し本校では、前議題で説明した通り、各項目を四半期ごとに点検し数値化する『自己点検システム』を構築しました。また、試験問題については、3年間ですべての科目の類似性をチェックする体制を規則化し、組織的な改善を図ってまいりました。

こうした取り組みの結果、本年1月30日付で評価結果は『適合』との通知をいただきました。これは本校の教育・運営体制が一定の基準を満たしていると認められたものです。

今回の評価の中で、特に『優れた点』として高く評価された項目が3点あります。

- 地域連携：約400社が加盟する『長野高専技術振興会』との強力なネットワーク、およびオープンラボを通じた共同研究に学生が参画している点。
- 教育の独自性：1年生の必修科目として導入した『ウェルネス・アウトドア』。従来の体育を進化させ、多様な学生同士のコミュニケーション構築を促す独創的な取組として評価されました。
- 国際交流：海外大学との協定に基づく活発な学生派遣。令和6年度には64名の学生が海外研修に参加した実績が評価されました。

一方で、『改善を要する点』として以下の3点の指摘も受けています。

- 高圧ガスの管理規程：管理規程の整備に漏れがあったこと。
- 学修単位の評価：授業時間外の自学自習分が適切に評価に反映されているかの担保。
- 成績の端数処理：科目によって端数処理の方法が統一されておらず、公平性の観点から改善が必要であること。

これらの指摘事項については、すでに2月までに対応を完了させているものもあり、引き続き内部質保証の強化に努めてまいります。

香山会長： 一点確認ですが、この『適合』という結果は、何段階評価の内のどの位置づけになるのでしょうか？

楡井総務主事： この評価は段階評価ではなく、『適合』か『不適合』かの二者択一になります。

香山会長： なるほど、安心いたしました。前回の厳しい指摘を真摯に受け止め、7年間かけて組織的に改善してこられた結果ですね。関係された皆様のご尽力に敬意を表します。

5) いじめ対策について

奥村学生主事： 本校におけるいじめ対策の取組についてご報告します。本校では『長野工業高等専門学校いじめ防止等基本計画』を策定しており、本日の報告はこの計画を学外有識者の皆様に周知し、外部評価をいただくプロセスの一環でもあります。

本計画は『いじめ防止対策推進法』等の法令や高専機構のガイドラインに基づき、8つの柱で構成されています。特に組織体制として、校長、副校長、学生相談室長、各系長、カウンセラー、ソーシャルワーカーなどで構成される『学校いじめ対策委員会』を設置しており、月に1回程度の定期開催に加え、事案発生時には臨時委員会を即座に開く体制を整えています。

未然防止の観点では、先ほど評価を受けた『ウェルネス・アウトドア』の授業が、多様な他者との共同関係づくりを学ぶ場として、体育担当教員からもいじめ防止に効果的であるとの報告を受けています。また、早期発見のために年4回のアンケート（記名2回、無記名2回）を実施しているほか、教職員が授業中に感じた『学生の孤立』などの違和感をグループウェアで即時共有する仕組みを運用しています。

具体的な最近の対応事例を3点紹介します。

- ① 無記名アンケートによる発見： 誰かは特定できないものの『嫌な思いをしている』との回答があった際、アンケートの実施時間からクラスと学年を絞り込み、継続的な見守り対象としました。
- ② ソーシャルワーカー面談からの発見： 面談でいじめの事実が判明し、直ちに担任が事態を把握しました。加害側は『相手の振る舞いへの仕返し』として行っていました。いじめはいかなる理由でも許されないことを指導し、現在は解消に向かっています。
- ③ 授業担当からの違和感報告： 実験授業で孤立している学生を教員が発見し共有しました。調査の結果、いじめの事実は認められませんでした。コミュニケーションに課題がある学生であることが分かったため、丁寧な見守りを継続しています。現在は、いじめの定義が広くなっており、些細なことでも積極的に見つけ出す方針をとっているため、報告件数自体は増加傾向にありますが、これは早期発見が機能している表れだと捉えています。

渡辺参与： 企業でいうハラスメントと同じですが、一番大事なのは被害者の保護です。本校のマニュアルを見ると、校長や多くの副校長まで情報が伝わるようになっていま

すが、あまりに多くの人間が知ることによる弊害はないのでしょうか？ また、このマニュアルは専門家の意見を取り入れて作成されたものですか？

早瀬校長： 本組織（いじめ対策委員会）は生徒間の事案に特化したもので、ハラスメントについてはまた別の組織（ハラスメント調査委員会など）が対応するよう切り分けています。いじめに関してはチームで組織的に対応し、最終的には校長が責任を持つ体制としています。

渡辺参与： 学生がポンと声を上げられるような、通報窓口や目安箱のようなものはあるのでしょうか？

奥村学生主事： メールによる目安箱、担任への直接相談、そして学生相談室があります。相談室にはカウンセラーやソーシャルワーカーが常駐しており、学生が相談しやすい環境を整えています。

渡辺参与： 実態として、いじめの件数はやはり多いのでしょうか？

早瀬校長： はい、現代的な意味での認知件数は増えています。以前は「力の強い者が弱い者を継続的に」といった条件がありましたが、現在はその定義が外れ、非常に幅広く捉えるようになりました。本校では「いじめは必ず起こるもの」という前提に立ち、まずは小さなことでも隠さず見つけ出すことを最優先としています。「いじめがあるから悪い」のではなく「早期に発見し対応する」という方針を徹底しているため、些細な違和感も組織として吸い上げられるようになり、結果として報告される数値は増加傾向にあります。

平林参与： いじめはあって当然という前提で動くのは良いことです。ただ、一点付け加えたいのは、最近保護者からの『カスタマーハラスメント』に近い過度な要求が教育現場で問題になっている点です。教員の個人携帯番号に朝から晩まで電話がかかってくるような事態は防がなければなりません。

企業では、代表電話一本で受け付け、組織として対応する体制が常識です。先生個人の負担にするのではなく、学校全体で教職員を守るための窓口一本化などを、教育委員会とも連携してぜひ検討していただきたい。

香山会長： 5年間という長い期間を過ごす高専において、学生が気持ちよく学べる場を作ることは非常に重要です。事例報告からも、多角的な視点で丁寧に見守られていることが分かりました。

ありがとうございました。本日用意いたしました5つの資料に基づき、各担当よりご説明をさせていただきました。議事の最後となりますが、全体を通して何かご質問や、あるいは言い足りなかった点などございますでしょうか。

特にご質問、ご意見も出尽くしたようですので、以上をもちまして、第22回参与会の議事を終了させていただきます。円滑な進行にご協力いただき、誠にありがとうございました。

7. 閉会

早瀬校長から閉会にあたり、志願者の確保や学科改組といった重要課題に対し、各界の視点から鋭い意見をいただいたことへの謝辞が述べられた。これらの忌憚のない意見を今後の学校運営や改革の方向に反映させていく決意を示すとともに、地域に愛され必要とされる学校であり続けるため、引き続きの指導と支援を賜りたい旨の挨拶があった。

第 22 回長野工業高等専門学校参与会

《次 第》

日 時 令和 8 年 2 月 2 6 日 (木) 13:30~15:30

会 場 長野工業高等専門学校 A201 会議室

次 第

1. 開会
2. 会長・副会長紹介
3. 自己紹介（各参与・長野高専出席者）
4. 校長あいさつ
5. 配付資料確認
6. 議事
 - 1) 受験者数・入試広報への取組
 - 2) 新系設置構想
 - 3) 自己点検（全体）
 - 4) 機関別認証評価受審報告
 - 5) いじめ対策について
 - 6) 質疑応答・意見交換
7. 閉会

第 22 回長野工業高等専門学校参与会 配付資料

- 長野工業高等専門学校参与会設置要項
- 第 22 回長野工業高等専門学校参与会出席者名簿／座席表

資料No. 1 受験者数・入試広報への取組

資料No. 2 新系設置構想

資料No. 3 - 1 自己点検（全体）

資料No. 3 - 2 自己点検評価表

資料No. 4 機関別認証評価受審報告

資料No. 5 いじめ防止について

冊子等

- 学校要覧（2025年版）
- GUIDE BOOK 2026
- 学園だより（196号）

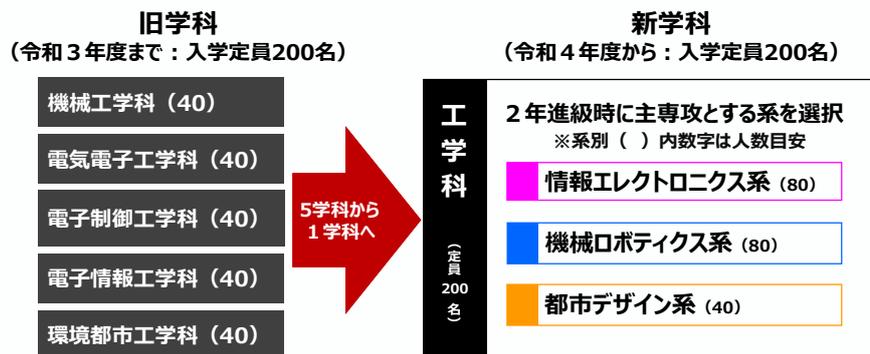
受験者数・入試広報への取組

令和7年度参与会

令和8年2月26日

1. 受験者数・入試広報への取組

- 令和4年度から学科構成を変更



従来は5学科ごとに入試を行っていたものを、令和4年度から1学科200名でくり入試を実施

1. 受験者数・入試広報への取組

- 長野高専の入試区分と募集人員

| 試験区分 | 募集人員 |
|--------------|------|
| 推薦選抜（1月） | 120名 |
| 学力選抜（2月） | 80名 |
| 帰国生徒特別選抜（2月） | 若干名 |
| 合計 | 200名 |

通常は推薦選抜100名、学力選抜100名の募集であるところ、高専機構に推薦選抜枠を60%に拡大することを毎年申請して、認められている

1. 受験者数・入試広報への取組

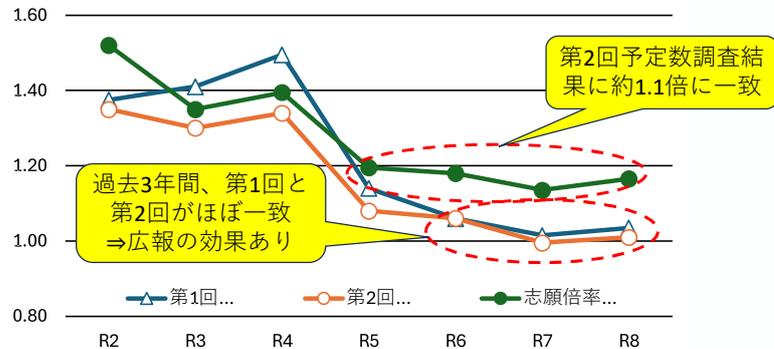
- 入試倍率の推移



令和5年度（改組2期生）以降、入試倍率が減少している
 （令和8年度は帰国生徒特別選抜に1名受験予定）

1. 受験者数・入試広報への取組

・県教委発表「入学志願者予定数調査」の推移



第1回（10月）、第2回（12月）の調査結果で入試倍率が推測可能
（令和8年度は帰国生徒特別選抜志願者1名を加えた数字）

1. 受験者数・入試広報への取組

| 項目 | R6年度 | R7年度 |
|----------------------------|-------------------------|-------------------------|
| 夏のオープンキャンパス(一日体験入学)(7月) | 607名(生徒340名) | 624名(生徒313名) |
| 進学説明会(8月、対象：中学校教員・塾講師) | 81名(対面27名、 オンライン54名) | 89名(対面27名、 オンライン62名) |
| 学校説明会(対面)(7~9月) | 5地区、生徒77名 | 6地区、生徒50名 |
| 学校説明会(オンライン)(5~12月) | - | 計6回、延べ118組 |
| KOSEN FES(全国高専合同説明会)(6・7月) | - | 東京・大阪2会場 |
| 工嶺祭(10月、学校説明会、2日間計4回) | 33組70名 | 53組116名 |
| 秋のオープンキャンパス(授業公開)(11月) | 171名(生徒81名) | 224名(生徒103名) |
| 伊那市中学校キャリアフェス(11月) | 参加(生徒約30名) | 参加(生徒約30名) |
| 高専模試 | 1回(12月)：36名 | 2回(9, 12月)：計75名 |
| 中学校訪問(教員、学生) | 学生のみ | 学生 長野市内を教員訪問 |

主な改善点(R6年度→R7年度)：学校説明会(対面)1地区増、学校説明会(オンライン)新設、
KOSEN FES：新規参加、高専模試：1→2回に増加

1. 受験者数・入試広報への取組

・入試広報活動①：夏のオープンキャンパス

(一日体験入学)

- ・ R6年度：7/6(土)、参加者607名(生徒340名、保護者等267名)
- ・ R7年度：7/5(土)、参加者624名(生徒313名、保護者等311名)

・本校への関心を持ったきっかけ<合格者アンケート上位3項目>

| 項目 | R6合格者 | R7合格者 |
|----------|-------------|-------------|
| 1.家族・親戚 | 110名(16.9%) | 118名(20.2%) |
| 2.工嶺祭 | 103名(15.9%) | 88名(15.0%) |
| 3.一日体験入学 | 92名(14.2%) | 88名(15.0%) |



夏のオープンキャンパスは重要なイベント

1. 受験者数・入試広報への取組

・入試広報活動②：学校説明会

- ・ R6年度：対面(5地区：長野、佐久、松本、諏訪、飯田)：生徒77名
- ・ R7年度：
 - ・ 対面(6地区：長野、上田、佐久、松本、諏訪、飯田)：生徒50名
 - ・ オンライン(6回：5月、6月、8月、9月、10月、12月)：延べ118組

| 対面(地区) | R6(生徒数) | R7(生徒数) | オンライン | 参加組数 | 北信 | 東信 | 中信 | 南信 | 県外 |
|--------|---------|---------|-------|------|----|----|----|----|----|
| 長野 | 40 | 20 | 5月 | 19 | 9 | 1 | 2 | 2 | 4 |
| 上田 | - | 6 | 6月 | 37 | 21 | 1 | 7 | 2 | 5 |
| 佐久 | 14 | 3 | 8月 | 17 | 6 | 0 | 3 | 0 | 8 |
| 松本 | 11 | 15 | 9月 | 7 | 1 | 0 | 4 | 0 | 2 |
| 諏訪 | 9 | 2 | 10月 | 12 | 5 | 0 | 3 | 1 | 3 |
| 飯田 | 3 | 4 | 12月 | 26 | 9 | 3 | 2 | 2 | 10 |
| 合計 | 77 | 50 | 合計 | 118 | 51 | 5 | 21 | 7 | 32 |

- ・ R7年度オンライン新設により、対面生徒数は減ったが、オンラインを含めると増加。
- ・ 特に、オンラインでは、県外の参加者へのアプローチができています。

1. 受験者数・入試広報への取組

・入試広報活動③：KOSEN FES(全国高専合同説明会)

- ・ R6年度：不参加
- ・ R7年度：東京会場、大阪会場の2回とも参加
 - ・ 東京：6/15(日)、参加高専数41校、来場者数941人
 - ・ 個別相談(現地、オンライン)、科学教室(ロボコン操縦体験)
 - ・ 大阪：7/13(日)、参加高専数39校、来場者数1233人
 - ・ 個別相談(現地、オンライン)



<個別相談ブースの様子>



<ロボコン操縦体験の様子>

1. 受験者数・入試広報への取組

・入試広報活動④：

工嶺祭(学校説明会) (工嶺祭と併設)

- ・ R6：10/19(土)・20(日)、
参加者33組70名
- ・ R7：10/18(土)・19(日)、
参加者53組116名



<学校説明会の様子>

・入試広報活動⑤：

秋のオープンキャンパス (授業公開と併設)

- ・ R6：11/4(月祝)、
参加者81組171名
- ・ R7：11/3(月祝)、
参加者103組224名



<女子高専生とのお茶会の様子>

1. 受験者数・入試広報への取組

• 入試広報活動⑥：高専模試

(株式会社エニバによる運営、受験料5,000円)

- 年5回(9、10、11、12、1月実施)の内、希望により現地開催可能
- R6年度：現地開催1回(12/7(土)36名)
- R7年度：現地開催2回(9/7(日)13名、12/6(土)62名、計75名)
- 現地開催に合わせて、学校説明会・見学会も実施

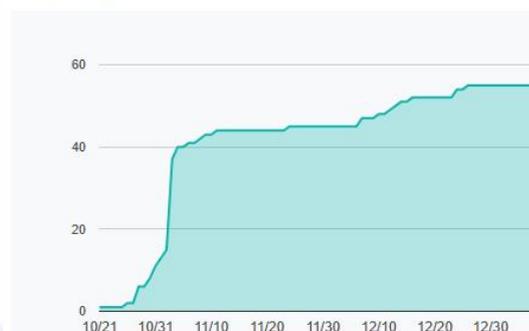


1. 受験者数・入試広報への取組

• 入試広報活動⑦：SNS(LINE)による情報発信

- 友だち登録数：55名(2025年10月～12月)
 - 月2回程度配信(入試広報イベント、入試情報など)
 - R7年10月運用開始、R8年度より本格運用予定

友だち追加



1. 受験者数・入試広報への取組

- 入試制度の見直し

令和9年度より推薦選抜の出願要件を変更予定

【従来】

①中学校3学年又は義務教育学校9学年において、9教科の成績が5段階評価の評定の合計で36以上の者（＝平均4.0）

【変更】

上記①に加えて②を追加

②中学校3学年又は義務教育学校9学年において、9教科の成績が5段階評価の評定の合計が34以上（＝平均3.78）で、かつ数学・理科・英語の評定の合計が13以上（＝平均4.3）。

⇒ 20名程度の志願者増を見込み、理科、数学、英語を得意とする学生の入学を期待する

1. 受験者数・入試広報への取組

- 今後に向けて

推薦選抜はほぼ定員（120名）近く志願がある



学力選抜で2倍の志願者を確保する（現状：1.4倍弱）

- 北信地域だけでなく東信・中信・南信地域で進学説明会を継続的に実施する

- オンライン説明会、各地区説明会、KOSEN FESに参加後、一度は高専に来てもらうよう誘導する

- 本校の在學生と交流する機会を増やして、高専生活をイメージしてもらえようにする

新系設置構想

令和7年度参与会

令和8年2月26日

2. 新系設置構想

- 志願者数の減少

令和4年度の学科改組後、志願者数が減少傾向

⇒ 中学生が魅力を感じる技術が学べる場が必要

(「1. 受験者数・入試広報への取組」資料を参照)

- 中学校卒業後の進路（工業系）

工業科または工業に関連する科がある県立高校の中で、本校にない科

長野工業高校：物質化学科

岡谷工業高校：環境化学科

木曾青峰高校：インテリア科

⇒ 化学系が少なく、志願者を取り込める可能性がある

2. 新系設置構想

- 中学校卒業後の進路（農業系）

県立高校で、農業科の志願倍率が工業科と比較して高い傾向であり、特にバイオテクノロジーを学べるコースへの希望者が多い

須坂創成高校：食品科学（微生物バイオコース）

上伊那農業高校：生物生産（植物コース）

下伊那農業高校：地域資源（食品サイエンスコース）

南安曇農業高校：生物工学

（植物バイオテクノロジー、動物バイオテクノロジー、微生物バイオテクノロジーの3コース）

⇒ バイオ系は志願者を取り込める可能性がある

2. 新系設置構想

- 1学科内に化学関連コースをもつ国立高専の状況

| 学校名 | 学科名 | 系・コース名（人数） |
|-----|--------------|---|
| 苫小牧 | 創造工学科 | 応用化学・生物系(40) |
| 八戸 | 産業システム工学科 | マテリアル・バイオ工学コース(40) |
| 一関 | 未来創造工学科 | 化学・バイオ系(40) |
| 秋田 | 創造システム工学科 | 物質・生物系(40) マテリアル・プロセス工学コース バイオ・アグリ工学コース |
| 茨城 | 国際創造工学科 | 化学・生物・環境系(40) |
| 米子 | 総合工学科 | 化学・バイオコース(40) |
| 津山 | 総合理工学科 | 先進科学系(40) |
| 阿南 | 創造技術工学科 | 化学コース(26) |
| 高知 | ソーシャルデザイン工学科 | 新素材・生命コース(32) |
| 有明 | 創造工学科 | 環境・エネルギー工学系(40) 応用化学コース 環境生命コース |
| 北九州 | 生産デザイン工学科 | 物質化学コース(40) |

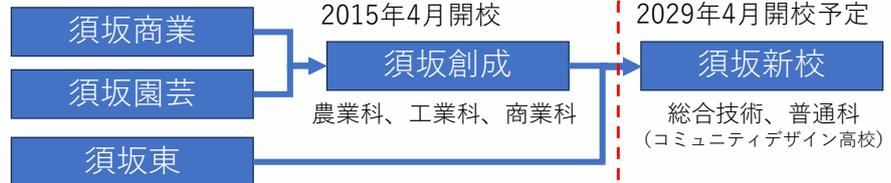
少人数コース
で運営

2. 新系設置構想

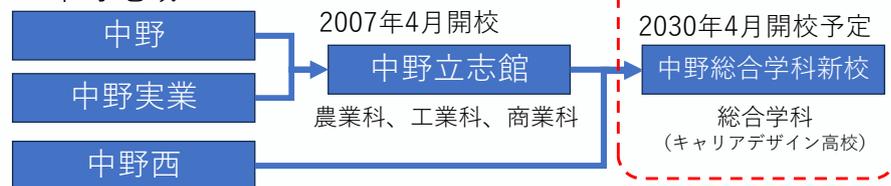
・北信地域の高校再編の動き

学びをデザインできる
学校が求められている

➤須坂地域



➤中野地域



2. 新系設置構想

・長野県ものづくり産業振興戦略プラン（2023～2027年度） におけるプロジェクト

- 1 様々な産業分野 × デジタルによる新産業創出
- 2 循環型社会構築に向けた新産業創出
- 3 電動モビリティ関連産業創出
- 4 信州型サーキュラーフード・フードテック
- 5 県民の健康と快適な環境での生活を維持する新製品・サービスの創出
- 6 健康機能や地域資源等を活用した新商品開発支援
- 7 地場産品を通じたプレミアムな価値提供
⇒ 新たな価値を生み出すための知識を学ぶ場が必要

2. 新系設置構想

- 令和6年度まで活動していた「新系設置検討ワーキンググループ」の報告を受けて、新たな系の設置を検討

令和7年度「物質・バイオ系構想検討ワーキンググループ」を設置

- 現在の教員・設備等で新系が設置できるか
- ニーズ調査（特に入口）

2. 新系設置構想

- 新系のイメージ・・・総定員（200名）は変更なし

現体制
(令和4年度から：入学定員200名)

| | |
|-------------------------------------|------------------|
| 工 学 科 (定員 200 名) | 2年進級時に主専攻とする系を選択 |
| | 情報エレクトロニクス系 (80) |
| | 機械ロボティクス系 (80) |
| | 都市デザイン系 (40) |



新体制
(入学定員200名)

| | |
|-------------------------------------|------------------|
| 工 学 科 (定員 200 名) | 2年進級時に主専攻とする系を選択 |
| | 情報エレクトロニクス系 (70) |
| | 機械ロボティクス系 (70) |
| | 都市デザイン系 (40) |
| | 物質・バイオ系 (20) |

※別（ ）内数字は人数目安

既存の3系やリベラルアーツ教育院に化学系、材料系、環境系の教員が複数おり、少数の新規採用で授業や卒業研究の実施が可能

2. 新系設置構想

• 教育内容

- (1) 国立高専機構「モデル・コアカリキュラム」の中で、
「化学・生物系」7分野を満たす科目を用意
- (2) 長野県は農業生産や食品加工業が盛んであることを配慮し、
「フードサイエンス」、「アグリサイエンス」等の科目を開設
- (3) 共通科目「エンジニアリングデザイン入門」、「エンジニアリングデザイン実践」、「実務訓練」等も学ぶ
- (4) 既存3系の教育分野を副専攻科目として学ぶ

【科目構成の分野】

有機化学、無機化学、分析化学、物理化学、化学工学、
生物化学、生物工学、**食品科学**、**農業科学**

(副専攻：金属材料、半導体工学、構造力学等の科目)

2. 新系設置構想

• 卒業後の進路

就職

進学

鉱業
農業
製造業（食料品製造業、化学工業等）
サービス業（廃棄物処理業等）

4年制大学への編入学
（工学部、農学部）
高専専攻科への進学

長野高専 物質・バイオ系

2. 新系設置構想

3年次までにMCC
の7分野を満たす

| 必修 選択等 の別 | 授業科目 | 単位数 | 学年別配当 | | | | | |
|-------------------------------|-----------|-----|-------|----|----|----|----|---|
| | | | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | |
| 物質・ バイオ系 基礎科目 必修 | 分析化学基礎 | 2 | | 2 | | | | |
| | 生命生物学 | 2 | | 2 | | | | |
| | 物理化学基礎 | 1 | | | 1 | | | |
| | 無機化学基礎 | 1 | | | 1 | | | |
| | 生化学基礎 | 2 | | | 2 | | | |
| | 化学工学基礎 | 1 | | | 1 | | | |
| | 微生物学基礎 | 1 | | | 1 | | | |
| | 高分子学基礎 | 1 | | | 1 | | | |
| | *分析化学Ⅰ | 2 | | | | 2 | | |
| | *物理化学Ⅰ | 2 | | | | 2 | | |
| | *無機化学Ⅰ | 2 | | | | 2 | | |
| | *有機化学Ⅰ | 2 | | | | 2 | | |
| | *生化学Ⅰ | 2 | | | | 2 | | |
| | *化学工学Ⅰ | 2 | | | | 2 | | |
| | 物質・バイオ実験Ⅰ | | | 2 | | | | |
| | 物質・バイオ実験Ⅱ | | | | 4 | | | |
| | 物質・バイオ実験Ⅲ | | | | | 4 | | |
| | 物質・バイオ実験Ⅳ | | | | | | 2 | |
| | 修得単位数小計 | | 36 | | 6 | 12 | 16 | 2 |

高学年でMCC
のレベルが高
い内容を学ぶ

2. 新系設置構想

| | | | | | | | |
|-------------------------------|-----------|------|--|--|--|------|---|
| 物質・ バイオ系 専門科目 選択 | *分析化学Ⅱ | 2 | | | | | 2 |
| | *物理化学Ⅱ | 2 | | | | 2 | |
| | *無機化学Ⅱ | 2 | | | | 2 | |
| | *有機化学Ⅱ | 2 | | | | 2 | |
| | *生化学Ⅱ | 2 | | | | | 2 |
| | *化学工学Ⅱ | 2 | | | | | 2 |
| | *高分子化学 | 2 | | | | | 2 |
| | *有機・無機材料 | 2 | | | | | 2 |
| | *フードサイエンス | 2 | | | | 2 | |
| | *アグリサイエンス | 2 | | | | 2 | |
| *食品発酵学 | 2 | | | | | 2 | |
| 修得単位数小計 | | 21以上 | | | | 21以上 | |

長野県ならではの
要素をプラス

- 4・5年次の開講科目が学修単位科目として開講することを前提に、米子高専と同規模の科目数（30科目程度）に絞り、6名程度の教員で運営
- 現在いる教員から4～5名程度（一部兼担）、2～3名程度を新規採用
- 信州大学等の機関と連携して授業・実験・研究を実施

2. 新系設置構想

• 施設整備について

1. 教室・実験室・分析機器室

教室は空いているゼミ室等を活用（3・4年用の2教室）
実験室は化学実験室（既存）を活用、他に分析機器室を配置

2. 教員室および卒研スペース

化学実験室に近い場所に教員室および卒研スペースを配置

3. 必要な機器

収納棚付実験機、薬品収納棚、水道・ガス配管、定温乾燥機、
クリーンベンチ、試料冷凍庫、培養器、クロマトグラフなど

⇒ 施設マスタープランを活用して年次進行で購入

⇒ 大学・高専機能強化支援事業 支援2「重点分野支援枠」を
活用（最大10億円、令和10年度まで申請可能）

2. 新系設置構想

• 今後の課題

- (1) 議論のスタートが「女子生徒の志願者増」から来ており、
これにより志願者が増えるか検討する必要がある
- (2) 少人数の教員で運営できるか（専攻科も設置できるか）
- (3) 施設整備ができるか（建物がない、教室や実験室の確保、
什器や分析機器の新規購入が必要、予算の確保）
- (4) 地元に根差した特徴ある系が作れるか

校内には、既存3系を発展させることで志願者増が実現できるのではないかとの意見もあり、様々な面から系の構成を検討する必要がある

（AIなど成長分野を含めた教育課程に発展させる など）

自己点検（全体）

令和7年度参与会

令和8年2月26日

8.地域連携活動等の状況

1.地域連携活動の目的と位置づけ

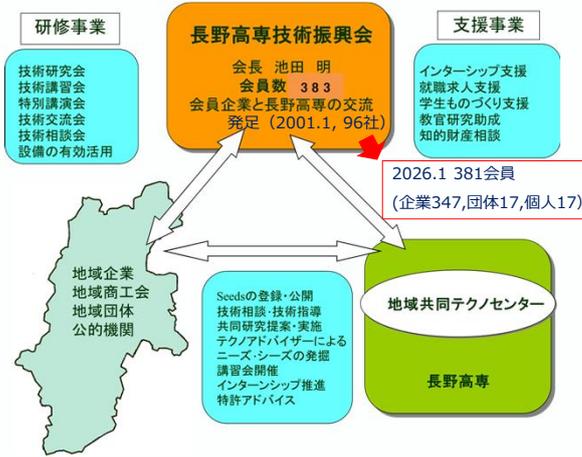
- ①地域共同テクノセンターを拠点として、産学官連携活動を実施する。
- ②地域ニーズの対応型の産学官連携活動を推進する。
- ③国際的技術力をもった企業の創出に貢献する。
- ④産学官連携活動推進のプロセスとその成果を常に学生の教育に還元する。
- ⑤連携活動を通して企業側技術者の人材育成の仕組みを構築する。
- ⑥学生の創意工夫の意識付けを行うための実践的かつ創造的技術者教育を行う。

8.地域連携活動等の状況

2.地域共同テクノセンター（長野高専技術振興会と協働）

1) 活動内容

- ①地域企業及び自治体との連携をおこなう。
- ②長野高専技術振興会との共同事業を行う。
- ③本校教職員と地域企業の共同研究、起業家事業等を支援する。



8.地域連携活動等の状況

2.地域共同テクノセンター（長野高専技術振興会と協働）

2) 活動状況

| 事業 | 年度 項目 | 2015 | | 2016 | | 2017 | | 2018 | | 2019 | | 2020 | | 2021 | | 2022 | | 2023 | | 2024 | |
|-------------|----------|-----------|-------------|-----------|------------|-----------|-------------|-----------|-------------|-----------|-------------|-----------|-------------|-----------|-------------|-----------|-------------|-----------|-------------|-----------|-------------|
| | | 件数 | 参加人数 | 件数 | 参加人数 | 件数 | 参加人数 | 件数 | 参加人数 | 件数 | 参加人数 | 件数 | 参加人数 | 件数 | 参加人数 | 件数 | 参加人数 | 件数 | 参加人数 | 件数 | 参加人数 |
| テクノセミナー | | 27 | 1455 | 29 | 795 | 27 | 1558 | 30 | 1319 | 30 | 1632 | 72 | 1039 | 57 | 1007 | 54 | 1139 | 55 | 986 | 52 | 1002 |
| 技術研究会 | | 6 | 119 | 5 | 97 | 7 | 160 | 6 | 132 | 8 | 130 | 3 | 0 | 3 | 11 | 4 | 57 | 6 | 115 | 8 | 96 |
| 技術交流会(含書ハレ) | | 2 | 169 | 2 | 65 | 2 | 109 | 2 | 104 | 2 | 70 | 2 | 76 | 2 | 152 | 2 | 164 | 2 | 155 | 2 | 75 |
| 合計 | | 35 | 1743 | 36 | 957 | 36 | 1827 | 38 | 1555 | 40 | 1632 | 77 | 1115 | 62 | 1170 | 60 | 1360 | 63 | 1258 | 62 | 1173 |
| インターンシップ支援 | | 1 | 57 | 1 | 48 | 1 | 60 | 1 | 59 | 1 | 51 | 1 | 52 | 1 | 66 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 出前講座 | | 11 | 166 | 11 | 126 | 11 | 158 | 16 | 126 | 3 | 21 | 0 | 0 | 1 | 2 | 1 | 32 | 1 | 34 | 1 | 15 |
| テクノサロン | | 10 | 122 | 9 | 115 | 18 | 246 | 11 | 152 | 12 | 152 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 | 153 | 7 | 94 |
| 会員数 | | 255 | | 278 | | 302 | | 324 | | 387 | | 396 | | 384 | | 444 | | 454 | | 396 | |

※会員数データに一部誤りがあり、2019年度以降は既存データに基づく数字に修正してあります。



◆2025年度
セミナー状況
企画数54件
開催数51件
参加352人
(2026年1月集計)

8. 地域連携活動等の状況

3. 課題と対策

1) 課題

テクノセミナー・技術研究会・技術交流会の参加数減少 (▲83名/2024年)

2) 対策

①実施内容と案内見直し

(案内の見直し、AREC、NICEからも案内する等)

②テクノセミナー利用 (多い/少ない) 企業のヒアリング

※複数企業向けの講座ではなく、カスタマイズした講座の実施を

望む声が複数あり。⇒ 出前講座として試行中。(2社実施、4社検討中)

9. 財務及び管理運営と情報公開

• 点検項目50.

適切な収支に係る計画等が策定され、関係者に明示されているか。

• 点検事項

1. 効率的・効果的な収支計画を策定しているか。
2. 学内会議等で予算配分方針を周知しているか。
3. 点検事項を再検討しているか。

点検項目50： 達成率 75、評価 3

- 6月執行会議にて予算配分方針案等が承認された。
- 7月運営会議で予算配分方針・予算配分の報告を行った。
- グループウェアへ資料の掲載を行った。

| 令和7年度 第3回執行会議議事概要 | |
|---|--|
| 日時 | 令和7年6月19日(木) 15:00～17:00 |
| 場所 | A201会議室 |
| 出席者 | 学園校長、室田、奥村、酒井、藤澤、楢井、田中、元井の各副校長、学生課長、総務課長 |
| 出席者 | 総務課課長補佐(財務)、学生課課長補佐、総務企画係長(事務担当) |
| 欠席者 | なし |
| 1 協議題 | |
| 01. 達成度試験等の実施に関する申合せの制定について(教務主事)資料あり | |
| 【一部修正の上承認】 | |
| ➤ 2の(6)再度評価の項目は原案より削除する。再試験の実施前に行う再度評価については再試験との関連等整理が必要のため、学内でさらに議論することになった。 | |
| 02-1. 寄宿料及び寮費の徴収等に関する経理要項の改正について(事務主事)資料あり | |
| 【承認】 | |
| ➤ エアコンリース代、ネットワーク費の金額変更のほか寄宿料の徴収方法について文言を修正した。 | |
| 02-2. 学生寮規則の改正について(事務主事)資料あり【承認】 | |
| ➤ 寄宿料及び寮費の徴収に関する記載を整理したことに伴う改正を行った。 | |
| 03. 専攻科入学者選抜(推薦)入試合格判定基準等に関する申合せ改正(案)について(専攻科長)資料あり【承認】 | |
| ➤ IP2.8を推薦基準とする。申合せの改正案については後日上程予定。 | |
| 04. 実習工場使用に関する申合せ(案)について(事務主事)資料あり【承認】 | |
| ➤ 実習工場の使用に関するルールを申合せとして制定した。 | |
| 05. 自己点検第1期について(総務主事)資料あり【承認】 | |
| ➤ 教員の評価の項目について、担当を教務主事から総務課へ変更する。 | |
| ➤ 参与会は第四半期の結果確定後の評価とし、次年度に入ってから開催が良いのではとの提案があったが、参与のスケジュール確保の点から難しいとの意見があった。 | |
| ➤ 企業アンケートは毎年実施でもよいのではないかという提案があった。5月のインターンシップ説明会で企業アンケートを実施するの一案であるとの意見が出された。 | |
| 06. さかきモノづくり展後援依頼について(総務主事)資料あり【承認】 | |
| ➤ 数社に一度後援名義の使用の依頼がある。現時点ではブース出展等の予定はない。 | |
| ➤ 学校名表記の誤りについて修正を依頼する。 | |
| 07. 令和7年度予算配分案について(事務部長)資料あり【承認】 | |
| ➤ 管理運営費が3%削減されており厳しい状況であること、人事院勧告による人件費の上昇を見越した留保分をふまえた予算配分としている。 | |

9. 財務及び管理運営と情報公開

- 点検項目51.
適切に予算が配分され、その執行状況の確認が行われているか。
- 点検事項
 1. 予算配分方針に基づき、適切な予算配分をしているか。
 2. 定期的に、予算執行状況を確認しているか。
 3. 点検事項を再検討しているか。

点検項目51： 達成率 75、評価 3

- 6月19日の執行会議にて
予算配分方針・予算配分
が承認された。
- 定期的に執行状況を確認
し、執行率が低い場合は
執行予定等を確認し、早
期執行を促している。

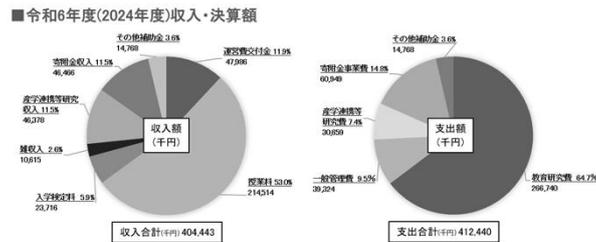


9. 財務及び管理運営と情報公開

- 点検項目52.
適切に予算が執行され、その結果が公表されているか。
- 点検事項
 1. 定期的に予算執行状況を把握しているか。
 2. 決算状況について、HP等で公表しているか。
 3. 点検事項を再検討しているか。

点検項目52： 達成率 75、評価 3

- 予算配分承認後、定期的に予算執行状況の把握を行っている。
- 6月末にホームページへ前年度の財務状況の公表を行った。



※収入額と支出額の差は、主に寄附金等の外部資金の受入額と支出額の差(翌年度への繰越額)によるもの

<https://www.nagano-nct.ac.jp/guide/open>

9. 財務及び管理運営と情報公開

- 点検項目53.
各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し、効果的に活動しているか。
- 点検事項
 1. 時宜に応じた事務組織等の見直しを行っているか。
 2. 事務組織等の人員配置などについて定期的に点検・確認しているか。
 3. 教育改善委員会で各種委員会の活動状況の点検を行っているか。
 4. 点検事項を再検討しているか。

点検項目53： 達成率 75、評価 3

- 第2四半期頃より次年度の事務組織等の人員配置を検討し、必要に応じて人員配置の見直しを行っている。
- 事務組織の人員配置の検討材料の一つとして、半期ごとの業績評価時における職員面談を通じて、現在の業務状況なども確認する予定。
- 年度末に教育改善委員会で各種委員会・センター等が適切に活動しているか点検を行っている。（令和7年3月「令和6年度教育改善報告書」）

令和6年度 教育改善報告書

— 効果的かつ効率的な教育活動を目指した点検評価 —

令和7年3月

長野工業高等専門学校
教育改善委員会

<https://www.nagano-nct.ac.jp/hubfs/guide/open/kaizenhoukokuR06.pdf>

9. 財務及び管理運営と情報公開

• 点検項目54.

情報セキュリティを含む危機管理等の安全管理体制が整備され、規則に沿った運用がなされているか。

• 点検事項

1. 安全管理規則が定められているか。
2. 規則に沿って研修が行われているか。
3. 規則に沿った安全管理対応が行われているか。
4. 点検・評価手法を再検討しているか。

点検項目56： 達成率 100、評価 5

- 企業や機関の協力のもと、インターンシップ事業を行っている。また、エンジニアリングデザイン実践では技術振興会会員企業に協力を受けて実施している。
- 点検項目は教務委員会で確認している。

長野高専・エンジニアリングデザイン実践

長野高専・工学科4年次で実施する
エンジニアリングデザイン実践のテーマを募集します
エンジニアリングデザイン実践とは？

学生自身が社会ニーズを調査し、チームを編成しアイデアを検討して、実際に製品を製作する実習科目です。
1年生ではものづくり基礎・実験で幅広く専門科目を知り、2年生では身近な課題を調査してアイデアを設計する入習を経験します。3年では専門の製造業を通して技術を磨きます。4年生で行われるエンジニアリングデザイン実践では、異なる系で学ぶ学生がチームを編成して、社会課題に取り組みます。1チーム5名を基準にしています。

1年間の流れ

| | | | | |
|-------|-----------------------|---|-----------|----------------------|
| テーマ募集 | 4月～5月 アイデア検討 設計 | 6月～12月 製品製作 進捗報告・ディスカッション 8～9月実践訓練 | 1月 発表会 | 2月 成果報告書 作成と提出 |
|-------|-----------------------|---|-----------|----------------------|

**現場の「ちょっとしたニーズ」を募集します
学生の知恵で問題解決してみませんか**

- 例) 製造現場における部品の効率的な整理方法
- 例) 普段は手が付かない業務改善につながるシステム開発・製品開発
- 例) 製造現場で発生する廃棄物の削減
- 例) 企業の新工場の計画
- 例) 製品の新しい機能の開発
- 例) 新入社員向けの研修プログラムの作成

エンジニアリングデザイン実践_テーマ募集シート.pptxを作成し
⇒申し込み用Form (印刷URL: <https://x.gd/RaTn4>) からご応募下さい

- お願い**
- 1週3時間程度、30週の実習であり、必ずしも成果が出るものではありません。1年間で取りまとめが可能な範囲でお願いします。
 - 応募多数の場合は、応募いただいたテーマが必ずしも取り扱われるものではありません。その点はご承知ください。
 - 定期的な進捗確認とアドバイスをとお願いたします。
 - 高専に専攻-修業が予定する中で、メンバー間の連携をお願いたします。
 - 製作における技術アドバイスや職人の加工、製品の納品提供は大幅です。
 - 永くエンジニアリングデザイン実践を進めるため、ご寄付を受け付けております。

問い合わせ先

エンジニアリング実践担当 (学生課・教務係)
E-mail: engineering-design@nagahoc.ac.jp Tel: 026-295-7017

9. 財務及び管理運営と情報公開

- 点検項目57.
管理運営に関わる職員の資質の向上を図るための取組が組織的に行われているか。
- 点検事項
 1. 定期的にSD研修会などを実施しているか。
 2. その他、職員の資質向上を図る取組を実施しているか。
 3. 点検事項を再検討しているか。

点検項目57： 達成率 80、評価 4

- 高専機構主催の初任職員研修会（4/16～18）に1名参加
- 高専機構主催の初任教員研修会（5/15～16）に4名参加
- 高専機構主催の令和7年度学務担当者向けオンデマンド研修（5/15～8/15）に1名参加
- 9/4 ストレスチェック集団分析結果説明会に教員9名、事務系職員6名、技術系職員3名参加、9/19 説明力向上研修に36名参加
- 長野高専主催の職員海外研修（シンガポールへの学生の海外研修に同行9/1～9/5）の研修報告会（10/14）を開催し、教員3名、事務系及び技術系職員20名参加
- ハラスメント防止に関する研修（12/8～3/6）実施中（全教職員対象）

9. 財務及び管理運営と情報公開

• 点検項目58.

教育情報（学校教育法施行規則の事項を含む）が公表されているか。また、タイムリーな情報発信が行われているか。

• 点検事項

1. 文部科学省令第15号に沿って情報公開が行われているか。
2. 公開状況の点検・整備が行われているか。
3. 点検・評価手法を再検討しているか。

点検項目58： 達成率 80、評価 4

- Researchmapの記載状況の点検を実施した。(5月)
- 月次行事の発信を開始した。(7月)
- SNS利用を定義し、学校公認のものをホームページに掲載した。(9月)
- ホームページの情報公開の状況を随時点検し、改善に努めている。



<https://www.nagano-nct.ac.jp/guide/socialmedia>

(※は必須事項)

文章

数値 1～5 文章

| 大項目 | 小項目 | 番号 | 点検項目 | 担当部署(担当者) | 点検事項 | 根拠資料 | 現状 | 達成率% | 自己評価 | 教育改善委員会からの提言 |
|-----------------|----------|----|--|--|--|---|--|------|------|--------------|
| 1. 教育の内部質保証 | 自己点検評価 | 1 | 自己点検・評価を実施するための方針、体制が整備され、点検・評価の基準・項目等が設定されており、改善を測る指標になっているか。また、自己点検・評価が定期的に行われ、その結果が公表されているか。 | 執行会議(総務主事) 教育改善委員会(委員長) | 1. 自己点検・評価の事項は改善を測る指標になっているか。 2. 点検・評価の数値基準を定めているか。 3. 点検・評価を四半期ごとに実施しているか。 4. 四半期ごとに点検・評価手法を再検討しているか。 | 第1期自己点検依頼(5/27校内メール) 第2期自己点検依頼(9/1校内メール) 第3期自己点検依頼(12/1校内メール) 第4期自己点検依頼(2/5校内メール) | R6年度自己点検評価表はホームページに公開 R7年度自己点検評価項目を運営会議にて確認 | 100 | 5 | |
| | | 2 | 学校の構成員及び学外関係者の意見の聴取が行われており、それらの結果が、教育の質の改善・向上に繋がっているか。 | 執行会議(総務主事) | 1. 学校構成員及び学外関係者の意見聴取の規則を定めているか。 2. 意見検討の手続きが定められているか。 3. 実施の効果について検討しているか。 4. 点検・評価手法を再検討しているか。 | 長野工業高等専門学校校長面談実施要項 長野工業高等専門学校職員面談実施に係る取扱いについて 参与会設置要項 第2回運営会議議事概要 R7年度業務計画依頼(4/30校内メール)、校長面談日程調整依頼メール(5/15校内メール) R7年度参与会(2/26予定) | R6年度教育改善委員会報告での提言を各委員会を確認するよう依頼 後援会からの要望等への対応検討 | 90 | 5 | |
| | 3つのポリシー※ | 3 | 準学士課程、専攻科課程それぞれについて、卒業(修了)の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)、入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)が定められており、社会の状況等の変化に応じて見直されているか。※ | 教務委員会(教務主事) 専攻科運営委員会(専攻科長) | 1. 教育目標に沿ったDPを具体的かつ明確に定めているか。※ 2. DPに沿ったCPを具体的かつ明確に定めているか。※ 3. APを具体的かつ明確に定めているか。※ 4. 3ポリシーの見直しの必要性について検討しているか。 | ホームページ公開資料 第3回教務委員会議事概要 専攻科運営委員会議事概要 執行会議議事概要 | 1. 教育目標に沿ったDPを具体的かつ明確に定め、ホームページ等に公開している。 2. DPに沿ったCPを具体的かつ明確に定めている。 3. APを具体的かつ明確に定めている。令和7年度は編入学者のAPを定めた。 4. 3ポリシーの見直しの必要性について教務委員会及び専攻科運営委員会で検討している。 | 100 | 5 | |
| 2. 組織及び教員・教育支援者 | 学校組織 | 4 | 教育活動を展開する上で必要な運営体制が適切に整備され、機能しているか。 | 総務課(事務部長) | 1. 定期的に各種委員会が開催されているか。 2. 運営体制が機能しているか適時点検・確認しているか。 | 関係規則 関係委員会議事概要 ホームページ公開資料 | 1. 毎月の執行会議・運営会議で各種会議・委員会からの報告がなされ、運営体制が機能していることを確認している。また、年度途中であっても、執行会議において必要があれば運営体制を見直しを行う体制としている。 2. 教育改善委員会において、各種委員会の活動状況の点検を年間通じて行っており、必要に応じて次年度への改善点等の提言を行っている。 | 100 | 5 | |
| | 教員等の配置 | 5 | 準学士課程、専攻科課程において、一般及び専門の教員並びに教育支援者が適切に配置されているか。 | 教務委員会(教務主事) 専攻科運営委員会(専攻科長) 総務課(事務部長) | 1. 一般科目担当教員を適切に配置しているか。 2. 専門科目担当教員を適切に配置しているか。 3. 教育支援者を適切に配置しているか。 4. 点検事項の確認・検討をしているか。 | 講義科目担当一覧 Webシラバス 教育支援者の配置に関する資料 第3回教務委員会議事概要 | 1・2. 各教員の専門とする領域を考慮して一般科目および専門科目の担当者として配置している。 3. 実験・実習科目を中心に授業支援者として技術職員を配置している。 4. 点検項目は教務委員会で確認している。 | 100 | 5 | |
| | 教員の評価 | 6 | 教員の採用や昇任に関する基準があり、適切な運用がされており、教員の教育研究活動に対して、定期的な評価が行われているか。 | 執行会議(校長) 総務課(事務部長) | 1. 教員の採用や昇任に関する基準があるか。 2. 採用・昇任認基準を適切に運用しているか。 3. 教員の教育研究活動を定期的に評価しているか。 4. 点検事項の確認・検討をしているか。 | 教員選考規則 教員昇任の取扱い 教員採用基準 人事委員会議事概要 教員の教育研究活動の評価に関する要項 教員評価指標項目 執行会議議事概要 | 1. 教員の採用や昇任に関する基準を定めている。 2. 採用及び昇任認基準を適切に運用している。 3. 教員評価指標項目を公開して、教員の教育研究活動を定期的に評価している。 4. 人事委員会で点検項目の確認を行う予定である。 | 100 | 5 | |
| | FD活動 | 7 | FD活動が実施され、教育活動の改善等に関わっているか。 | 教育改善委員会(委員長) 執行会議(総務主事) | 1. FD研修会を3回実施しているか。 2. 実施FD研修会の効果を検討しているか。 3. 点検事項を再検討しているか。 | 【収集する資料の例】 関係規則 教育改善委員会議事概要 研修会資料、アンケート結果 など | 1. 本年度3回FD研修会を実施した。現在第4回のFD開催を準備している。 2. 実施FD研修会の効果の確認の仕方を検討している。 3. 年度当初に点検事項を再検討した。 | 100 | 5 | |

| | | | | | | | | | | |
|---------------|-----------|----|--|---|---|--|---|-----|---|--|
| 3. 学習環境及び学生支援 | 学習環境 | 8 | 学校の施設・設備が整備され、適切な安全・衛生管理の下に有効に活用されているか。 | 総務課(事務部長) | <ol style="list-style-type: none"> 定期的に施設の管理状況を点検し、良好な状態で維持保全しているか。 安全衛生委員会による月1回の職場巡視を実施しているか。 点検事項を再検討しているか。 | 安全衛生委員会議事概要 キャンパスマネージメント委員会議事概要 施設の点検・検査記録 | <ol style="list-style-type: none"> 安全衛生委員会メンバーが毎月職場巡視(4/22、5/19、6/17、7/16、8/8、9/19、10/14、11/12、12/11、1/15、2/10、3/??)を行い、職場の安全衛生を点検・確認し、同委員会が必要に応じて改善を図っている。 施設の維持管理については、施設管理者による日常的な点検に加え、契約による定期点検や法定点検等を実施した。 資産の有効活用を図るために、例年、居室等の稼働状況の把握を目的とした施設利用状況調査を2月に実施した。調査結果は情報共有し、稼働率が低い居室等は有効活用に向けた検討を行った。 | 100 | 5 | |
| | | 9 | 学生のニーズに対応したICT環境が十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され、有効に活用されているか。 | 教務委員会(教務主事) 情報教育センター(センター長) | <ol style="list-style-type: none"> 学生のニーズ調査を実施しているか。 セキュリティ研修を実施しているか。 ICT環境の保守・点検を実施しているか。 点検事項を再検討しているか。 | BYODのノートPCに関する学生アンケート結果 情報システムに関する宣誓書(学生) プリンタナーカートリッジ交換記録 第3回教務委員会議事概要 情報教育センター会議議事録 | <ol style="list-style-type: none"> BYODによるPC環境としていることから、11月に学習環境にあったPCの選び方や必要な周辺器材などを学生を対象に調査して、次年度の学生に生かしている。 校内無線LANの利用申請時に誓約してもらった内容に、規約や禁止事項などを熟読させ、利用許可を与えている。 プリンタの消耗品の管理と共に状況を確認している。また、ネットワークの通信状況を常時監視し、異常がある時には、共有して対応を検討している。 点検項目は教務委員会及び情報教育センターで確認している。 | 100 | 5 | |
| | | 10 | 図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集、整理されており、有効に活用されるよう取り組みが行われているか。 | 図書館(館長) 執行会議(総務主事) | <ol style="list-style-type: none"> 教職員・学生のニーズ調査を実施しているか。 蔵書の点検を実施しているか。 図書の活用状況の点検を実施しているか。 点検事項を再検討しているか。 | <ol style="list-style-type: none"> 教職員「学生用図書の推薦について」(4/7教職員へのオールメール)、学生「リクエスト図書募集(長野高専図書館)」(6/11学生へのオールメール) 3. 4、5月の図書資料等貸出月計表 | <ol style="list-style-type: none"> 教職員・学生ともに実施中 令和6年度3月実施済み。年1回実施のため、令和7年度においては未着手。(改善点 令和7年度においても3月完了を予定している) 根拠資料を、館長・係長・係員で回覧し、活用の現状を把握している。 検討済み | 100 | 4 | |
| | 学生支援 ※ | 11 | 新入生、留学生、編入生に対して、履修や施設・設備等に関するガイダンスを実施しているか。※ | 教務委員会(教務主事) 専攻科運営委員会(専攻科長) | <ol style="list-style-type: none"> 新入生ガイダンスを実施しているか。※ 留学生ガイダンスを実施しているか。※ 編入生ガイダンスを実施しているか。※ 点検事項の確認・検討をしているか。 | 新入生の年度当初の日程 入学式資料 第3回教務委員会議事概要 | <ol style="list-style-type: none"> 準学士課程および専攻科課程の新入生については、入学式当日および翌日に実施している。 2-3. 準学士課程の留学生及び編入学生については入学式当日に実施している。 4. 点検項目は教務委員会で確認している。 | 100 | 5 | |
| | | 12 | 学生の自主的学習を進める上での相談・助言等を行う体制が整備され、機能しているか。※ | 教務委員会(教務主事) 専攻科運営委員会(専攻科長) 学生相談室(室長) 教育改善委員会(委員長) | <ol style="list-style-type: none"> 学生の学習活動に関して相談できる体制を整えているか。※ 相談・助言等を行う体制が機能しているか。 相談対応など、状況確認がなされているか。 点検事項の確認・検討をしているか。 | Webシラバス 学生支援に関する基本方針 ホームページ公開資料 第3回教務委員会議事概要 | <ol style="list-style-type: none"> オフィスアワーを設定して、学習活動に関して相談できる体制を整えている。 学生からオフィスアワー等の時間に質問があった場合には、時間外教科指導履歴に記録を残して、体制が機能していることを確認している。 毎月の運営会議において学生相談室からの状況報告が行われ、情報共有されている。 点検項目は教務委員会で確認している。今後、他の委員会等で確認する予定である。 | 100 | 5 | |
| | | 13 | 特別な支援が必要と考えられる学生への学習支援及び生活支援等が行われているか。※ | 教務委員会(教務主事) 専攻科運営委員会(専攻科長) 国際交流センター(センター長) 学生相談室(室長) | <ol style="list-style-type: none"> 特別な支援が必要となる新入生の情報を共有しているか。 特別な支援が必要となる留学生の情報を共有しているか。 必要な支援や配慮事項を検討しているか。※ 点検事項の確認・検討をしているか。 | 保健調査票 学生支援に関する基本方針 長野高専における個別支援(合理的配慮)(ホームページ公開資料) 第3回教務委員会議事概要 | <ol style="list-style-type: none"> 新入生について配慮が必要な情報は関係教職員間で共有している。 留学生について配慮が必要な情報は関係教職員間で共有している。 学生相談室、スクールソーシャルワーカー、学級担任、教務主事等で支援や配慮事項を検討している。また、修学支援室(仮称)設置に向けて規則等の整備を進めている。 点検項目は教務委員会で確認している。今後、他の委員会等で確認する予定である。 | 100 | 5 | |
| | | 14 | 学生の生活や経済面に係わる指導・相談・助言等を行う体制が機能しているか。※ | 学生支援委員会(学生主事) 専攻科運営委員会(専攻科長) 学生相談室(室長) | <ol style="list-style-type: none"> 学生の生活や経済面に係わる相談・助言等を行う体制が機能しているか。※ 学生や保護者に対して各種奨学制度について周知する体制を整えているか。 点検事項を再検討しているか。 | 学級担任業務ガイド 学生便覧 相談室からのメッセージ 学生相談室報告 例えば第3回学生支援委員会資料(奨学金推薦実績をその都度報告) 第1回学校いじめ対策委員会議事次第 学校ホームページ「経済的支援」 https://www.nagano-nct.ac.jp/life/support 例えば後援会総会(6/28)にて説明 第1回学生支援委員会資料No.1, 3 | <ol style="list-style-type: none"> 本科生に対しては学級担任が、専攻科生に対しては専攻長が主に相談・助言等を行っている。また、メンタル面など専門性の高い相談事項については学生相談室、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーと連携して支援を行っている。いじめ対策については、学生相談室で定期的に状況を把握するとともに、学校いじめ対策委員会を定期的に開催して情報を共有して、チームで対応している。 学生や保護者に対して学生課学生係よりメールやホームページで各種奨学金の案内を行っている。また、保護者に対してホームページに掲載している旨を後援会の支部会等で説明している。 点検項目は学生支援委員会で確認している。 | 100 | 5 | |
| | | 15 | 進路指導およびキャリア教育の体制が機能しているか。 | 進路支援室(専攻科長) 教務委員会(教務主事) 専攻科運営委員会(専攻科長) | <ol style="list-style-type: none"> キャリア教育に関する各種セミナーを実施しているか。 進路に関する相談・助言等を行う体制が機能しているか。 インターンシップが適切に行われているか。 点検事項を再検討しているか。 | 進路支援室会議資料 進路支援室Letter 実務訓練の手引き 学外実習の手引き 第3回教務委員会議事概要 進路支援室議事概要 | <ol style="list-style-type: none"> 進路セミナーを、本科3年生(11/5)、4年生(10/1、11/12、11/19)、専攻科1年生(8/6)を対象に実施している。本科4年生を対象に、卒業生講演会(12/4)、進学講演会(12/10)を実施している。 学生主事、専攻科長、専攻長、系長、学級担任、就職担当教員、キャリアコーディネーターで構成する進路支援室が進路に関する相談・助言を行っている。 本科生の実務訓練は教務委員会と4学年会が中心となり、専攻科生の学外実習は専攻科運営委員会が中心となって実施している。本科4年生は5/29に企業説明会を開催してマッチングを図るとともに、実施状況については実施機関への訪問および実習報告書で確認している。 点検項目は教務委員会で確認している。今後、進路支援室及び専攻科運営委員会で確認する予定である。 | 70 | 4 | |

| | | | | | | | | | | |
|-------------------------|----------------|---|--|---|---|--|---|-----|---|--|
| | | 16 | 課外活動に対する支援体制が、適切に機能しているか。 | 学生支援委員会(学生主事) | <ol style="list-style-type: none"> 1. 課外活動の指導教員を配置して、課外活動を支援しているか。 2. 教員または課外活動指導員用の指導マニュアルに従い、課外活動が安全に実施できているか。 3. 点検事項を再検討しているか。 | 部・同好会指導教員一覧 部・同好会活動の指導に関するガイドライン 長野高専課外活動指導員マニュアル 学生の病気・ケガに対する対応報告書 第1回学生支援委員会資料No.1, 3 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 部・同好会に指導教員を配置して、課外活動を支援している。また、平日の放課後と休日の午前中に課外活動指導員を配置して、教員の業務負担軽減を図っている。 2. 教員用「部・同好会活動の指導に関するガイドライン」、課外活動指導員用「長野高専課外活動指導員マニュアル」に従い、引率時や練習時でケガや体調不良となった学生が出た場合に医療機関を受診させるなど対応できている。 3. 点検項目は学生支援委員会で確認している。 | 100 | 5 | |
| | | 17 | 学生寮が、学生の生活及び勉学の間として有効に機能しているか。 | 寮務委員会(寮務主事) | <ol style="list-style-type: none"> 1. 満足した生活の場を提供しているか。 2. 勉学の場を提供しているか。 3. 点検事項を再検討しているか。 | 第3回寮生協議会資料寮食アンケートまとめ 第3回寮務委員会 朝食摂食率調査実施要項 第2回寮生協議会 議事録、企画書テスト勉強会 第5回寮生協議会 議事録、冷蔵庫の設置、寮生意見フォームへの回答 第10回寮務委員会 議事録 自己点検項目の確認・検討 | <ol style="list-style-type: none"> 1 について ①寮務委員会で朝食摂食率調査を実施中、寮生会食堂委員が食堂調査のアンケートを実施(第3回寮生協議会議事録) ②寮生会が寮生からの意見収集を行うフォームを設置、各号館に共有の冷蔵庫を設置、管理運営(第5回寮生協議会議事録) 2 について 寮生会が試験前の勉強会を企画開催(寮生協議会議事録)、日課表へのコアタイム設定と当直による館内巡視の実施(コアタイム巡視報告書) 3 について 寮務委員会にて確認・検討 | 100 | 5 | |
| 4. 準学士課程の教育課程・教育方法・学習成果 | 教育課程の編成※ | 18 | カリキュラム・ポリシーに基づき、教育課程が体系的に編成されているか。※ | 教務委員会(教務主事) | <ol style="list-style-type: none"> 1. CPIに基づき教育課程を体系的に編成しているか。※ 2. 点検事項の確認・検討をしているか。 | 令和7年度教育課程表 第3回教務委員会議事概要 | <ol style="list-style-type: none"> 1. カリキュラムポリシーに従い、一般科目及び専門科目を配置した教育課程を編成している。 2. 点検項目は教務委員会で確認している。 | 100 | 5 | |
| | | 19 | 教育課程には、学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請に対応した科目、創造力・実践力を育む科目、異文化や地域の文化を理解する科目などが配置されているか。 | 教務委員会(教務主事) | <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生のニーズ、学術発展の動向、社会の要請に対応した科目を配置しているか。 2. 創造力・実践力を育む科目を配置しているか。 3. 異文化理解・地域文化理解のための科目を配置しているか。 4. 点検事項の確認・検討をしているか。 | ホームページ公開資料(工学科概要) 教育課程表 第3回教務委員会議事概要 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 学科改組による新設科目を含め、一般科目および専門科目を適切に配置している。 2. 2年次にエンジニアリングデザイン入門を、4年次にエンジニアリングデザイン実践を配置して、創造性を育む教育を実践している。 3. 異文化理解のための外国史や語学科目を、地域文化理解のための科目群「長野学」を配置している。 4. 点検項目は教務委員会で確認している。 | 100 | 5 | |
| | 授業形態、学習指導法※ | 20 | 教育内容に応じた、履修指導、適切な学習指導上の工夫がなされているか。※ | 教務委員会(教務主事) | <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育内容に応じて履修指導・学習指導上の工夫をしているか。※ 2. 指導上の工夫等について報告により確認をしているか。 3. 点検事項の確認・検討をしているか。 | 学習の手引き(1年生用) 教育改善報告書 第3回教務委員会議事概要 | <ol style="list-style-type: none"> 1. シラバスを使って各科目ごと履修指導を行っている。また、1年生に対して「学習の手引き」を配布して履修指導を行っている。今後、学習指導上の工夫についての確認を行う予定である。 2. 教員から提出される授業改善報告書で確認している。 3. 点検項目は教務委員会で確認している。 | 50 | 3 | |
| | | 21 | カリキュラム・ポリシーに沿って、適切なシラバスが作成され、活用されているか。 | 教務委員会(教務主事) | <ol style="list-style-type: none"> 1. CPIに沿って、適切なシラバスを作成しているか。 2. シラバスを活用しているか。 3. 点検事項の確認・検討をしているか。 | Webシラバス シラバス点検に関する申し合わせ 第3・5回教務委員会議事概要 | <ol style="list-style-type: none"> 1. CPIに沿って、令和7年度のシラバスを作成している。令和8年度のシラバス作成から、新たに定めた「シラバスの点検に関する申し合わせ」に基づき、記載内容を点検する予定である。 2. シラバスの活用については授業評価アンケートで確認している。 3. 点検項目は教務委員会で確認している。 | 100 | 5 | |
| | 成績評価・進級及び卒業判定※ | 22 | 成績評価・単位認定及び卒業認定の各基準が学生等に周知されているか。 | 教務委員会(教務主事) | <ol style="list-style-type: none"> 1. 成績評価・単位認定の基準を周知しているか。 2. 卒業認定の基準を周知しているか。 3. 点検事項の確認・検討をしているか。 | Webシラバス 学生便覧(教育課程表) 第3回教務委員会議事概要 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 成績評価・単位認定の基準はシラバスに記載して周知している。 2. 単位数および卒業要件については学生便覧(教育課程表)で周知している。 3. 点検項目は教務委員会で確認している。 | 100 | 5 | |
| | | 23 | 成績評価は適切に行われているか。※ | 教務委員会(教務主事) 教育改善委員会(委員長) | <ol style="list-style-type: none"> 1. 成績評価を適切に行っているか。※ 2. 成績評価方法を確認しているか。 3. 点検事項の確認・検討をしているか。 | Webシラバス 成績評価履歴 第3回教務委員会議事概要 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 令和6年度はシラバスおよび成績評価履歴により成績評価が適切に行われていることを確認している。令和7年度についても同様に実施する予定である。 2. シラバス作成時に確認している。 3. 点検項目は教務委員会で確認している。 | 100 | 5 | |
| 24 | | 進級判定、卒業認定が適切に行われているか。 | 教務委員会(教務主事) | <ol style="list-style-type: none"> 1. 進級判定を適切に行っているか。 2. 卒業認定を適切に行っているか。 3. 進級判定・卒業認定基準を確認しているか。 4. 点検事項の確認・検討をしているか。 | 卒業・進級判定資料 第3回教務委員会議事概要 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 令和6年度末に開催した教員会議および臨時執行会議で進級判定を行っている。令和7年度についても同様に確認する予定である。 2. 令和6年度末に開催した教員会議および臨時執行会議で卒業判定を行っている。令和7年度についても同様に確認する予定である。 3. 教務委員会において進級および卒業認定の基準を確認している。 4. 点検項目は教務委員会で確認している。 | 100 | 5 | | |
| 学習・教育の成果※ | 25 | ディプロマ・ポリシーに沿った学習・教育の成果が認められるか。※ | 教務委員会(教務主事) | <ol style="list-style-type: none"> 1. 学業成績からDPIに沿った学習・教育の成果が認められるか。※ 2. 学会発表や学生表彰からDPIに沿った学習・教育の成果が認められるか。 3. 点検事項の確認・検討をしているか。 | 卒業・進級判定資料 長野工業高等専門学校教育研究報告 学生表彰者一覧 第3回教務委員会議事概要 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 令和6年度において、学年末成績より、学習・教育到達目標を達成するために設定された科目の単位習得により、学習・教育の成果が認められた。令和7年度についても同様に確認する予定である。 2. 令和6年度において、学会発表や課外活動、コンテスト等で活躍した学生の状況から、学習・教育の成果が認められた。令和7年度についても同様に確認する予定である。 3. 点検項目は教務委員会で確認している。 | 100 | 5 | | |
| | 26 | 卒業時の学生および卒業生・進路先関係者からの意見聴取で、ディプロマ・ポリシーに沿った学習・教育の成果が認められるか。※ | 教務委員会(教務主事) | <ol style="list-style-type: none"> 1. 卒業時のアンケートからDPIに沿った学習・教育の成果が認められるか。※ 2. 卒業生アンケートからDPIに沿った学習・教育の成果が認められるか。※ 3. 企業アンケートからDPIに沿った学習・教育の成果が認められるか。※ 4. 点検事項の確認・検討をしているか。 | 学習到達度自己評価アンケート結果 第3回教務委員会議事概要 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 学習到達度自己評価アンケート結果より、DPIに沿った学習・教育の効果が認められる。令和7年度についても同様に確認する予定である。 2. 令和6年度に実施した卒業生アンケート結果から、DPIに沿った学習・教育の成果が認められた。なお、令和7年度は卒業生アンケートの実施予定はない(5年に一度実施)。 3. 令和6年度に実施した企業アンケート結果から、DPIに沿った学習・教育の成果がおおよそ認められた。なお、令和7年度は企業アンケートの実施予定はない(5年に一度実施)。 4. 点検項目は教務委員会で確認している。 | 100 | 5 | | |

| | | | | | | | | | | |
|-------------------------|-------------|----|--|--------------------------------|--|---|---|-----|---|--|
| | | 27 | 卒業後の進路状況から判断して、学習・教育の成果が認められるか。 | 教務委員会(教務主事) | 1. 卒業後の進路に学習・教育の成果が表れているか。 2. 点検事項の確認・検討をしているか。 | ホームページ広報資料(就職・進学) 進路指導状況報告書 第3回教務委員会議事概要 | 1. 令和6年度の進路決定状況より、就職内定率は98.9%、進学決定率は96.0%であることから、学習・教育の効果が表れている。大学編入学試験における合格率は、推薦選抜は89.2%と順調だったが、一般選抜は52.8%となっており、一定の学習・教育の成果が認められた。令和7年度については、卒業時の進路決定状況から確認する予定である。 2. 点検項目は教務委員会で確認している。 | 100 | 5 | |
| 5. 専攻科課程の教育課程・教育方法・学習成果 | 教育課程の編成※ | 28 | カリキュラム・ポリシーに基づき、教育課程が体系的並びに準学士課程との連携および発展的に編成されているか。※ | 専攻科運営委員会(専攻科長) | 1. CPIに基づき教育課程を体系的に編成しているか。※ 2. 点検事項の確認・検討をしているか。 | 【収集する資料の例】 専攻科運営委員会議事概要 教育課程表、系統図 など | 1. 特例適用認定専攻科であるため、検討は行いが、変更の即時性はない。 2. 点検項目の検討は随時行っている。 | 100 | 5 | |
| | | 29 | 教育課程には、学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請に対応した科目、創造力・実践力を育む科目、異文化や地域の文化を理解する科目などが配置されているか。 | 専攻科運営委員会(専攻科長) | 1. 学生のニーズ、学術発展の動向、社会の要請に対応した科目を配置しているか。 2. 創造力・実践力を育む科目を配置しているか。 3. 異文化理解・地域文化理解のための科目を配置しているか。 4. 点検事項の確認・検討をしているか。 | 【収集する資料の例】 専攻科運営委員会議事概要 教育課程表、系統図 シラバス など | 1. 2. 3. 特例適用認定専攻科であるため、検討は行いが変更の即時性はない。 4. 点検事項の検討は随時行っている。 | 100 | 5 | |
| | 授業形態、学習指導法※ | 30 | 教育内容に応じた、履修指導、適切な学習指導上の工夫がなされているか。※ | 専攻科運営委員会(専攻科長) | 1. 教育内容に応じて履修指導・学習指導上の工夫をしているか。※ 2. 指導上の工夫等について報告により確認をしているか。 3. 点検事項の確認・検討をしているか。 | 【収集する資料の例】 専攻科運営委員会議事概要 ガイダンス・配布資料 など | 1. 年度初に履修計画書で取得単位数を確認している。 2. 「学習総まとめ科目」の履修計画書・成果の要旨の確認をしている。 3. 点検事項の確認は随時行っている。 | 100 | 5 | |
| | | 31 | カリキュラム・ポリシーに沿って、適切なシラバスが作成・活用され、研究指導が適切に行われているか。 | 専攻科運営委員会(専攻科長) | 1. CPIに沿って、シラバスを適切に作成しているか。 2. シラバスを活用しているか。 3. 点検事項の確認・検討をしているか。 | 【収集する資料の例】 専攻科運営委員会議事概要 シラバス など | 1. これからシラバスの点検を実施する。 2. 1年次の取得単位数を確認し、必要に応じて2年次の履修計画を見直すように指導している。 | 80 | 4 | |
| | 成績評価・修了判定※ | 32 | 成績評価・単位認定及び修了認定の各基準が学生等に周知されているか。 | 専攻科運営委員会(専攻科長) | 1. 成績評価・単位認定の基準を周知しているか。 2. 修了認定の基準を周知しているか。 3. 点検事項の確認・検討をしているか。 | 【収集する資料の例】 専攻科運営委員会議事概要 学生便覧 シラバス など | 1. 成績評価および単に認定は、シラバスで周知している。 2. 年度当初のガイダンスで説明している。 3. 点検事項の確認は随時行っている。 | 100 | 5 | |
| | | 33 | 成績評価は適切に行われているか。※ | 専攻科運営委員会(専攻科長) 教育改善委員会(委員長) | 1. 成績評価を適切に行っているか。※ 2. 成績評価方法を確認しているか。 3. 点検事項の確認・検討をしているか。 | 【収集する資料の例】 専攻科運営委員会議事概要 成績評価履歴 シラバス など | 1. 専攻科運営委員会で半期ごとに成績を確認している。 2. 教育改善委員会と連携して、エビデンスの確認を行う。 3. 点検事項の確認は随時行っている。 | 100 | 5 | |
| | | 34 | 修了認定が適切に行われているか。※ | 専攻科運営委員会(専攻科長) | 1. 修了認定を適切に行っているか。※ 2. 修了認定基準を確認しているか。 3. 点検事項の確認・検討をしているか。 | 【収集する資料の例】 執行会議・教員会議・専攻科運営委員会議事概要 成績・進級・卒業判定資料 など | 1. 専攻科運営委員会で確認し、執行会議で承認している。 2. 修了認定基準は半期毎の成績等で確認している。 3. 点検事項の見直しは随時行っている。 | 100 | 5 | |
| | 学習・教育の成果※ | 35 | ディプロマ・ポリシーに沿った学習・教育の成果が認められるか。※ | 専攻科運営委員会(専攻科長) | 1. 学業成績からDPに沿った学習・教育の成果が認められるか。※ 2. グローバル化への対応成果が認められるか。 3. 点検事項の確認・検討をしているか。 | 【収集する資料の例】 専攻科運営委員会議事概要 特別研究Ⅱ英語要項および発表 など | 1. 半期ごとに成績の確認を行っている。 2. 1年次および2年次で英語のプレゼンを実施している。 3. 点検事項の見直しは随時行っている。 | 100 | 5 | |
| | | 36 | 修了時の学生および卒業生修了生・進路先関係者からの意見聴取で、ディプロマ・ポリシーに沿った学習・教育の成果が認められるか。※ | 専攻科運営委員会(専攻科長) | 1. 修了時のアンケートからDPに沿った学習・教育の成果が認められるか。※ 2. 修了生アンケートからDPに沿った学習・教育の成果が認められるか。※ 3. 企業アンケートからDPに沿った学習・教育の成果が認められるか。※ 4. 点検事項の確認・検討をしているか。 | 【収集する資料の例】 専攻科運営委員会議事概要 修了時アンケート結果 修了生・企業アンケート結果 など | 1. 修了時のアンケートは毎年実施している。 2. 修了生からのアンケートは5年に一度実施している。 3. 企業へのアンケートは5年に一度実施している。 4. 点検事項の確認は随時行っている。 | 100 | 5 | |
| | | 37 | 修了後の進路状況から判断して、学習・教育の成果が認められるか。 | 専攻科運営委員会(専攻科長) | 1. 修了時の学士の取得状況から学習・教育の成果が認められるか。 2. 修了後の進路状況から学習・教育の成果が認められるか。 3. 点検事項を再検討しているか。 | 【収集する資料の例】 専攻科運営委員会議事概要 進路状況資料 など | 1. 専攻科の修了要件を満たしているかを確認し、学習・教育成果を確認している。 2. 修了後の進路状況から学習・教育成果を確認している。 3. 点検事項の確認は随時実施している。 | 100 | 5 | |
| | | 38 | アドミッション・ポリシーに沿って適切な入学者選抜方法が適切に実施されているか。※ | 教務委員会(教務主事) 入学者選抜委員会(教務主事) | 1. APに基づき入学者選抜を実施しているか。※ 2. 点検事項の確認・検討をしているか。 | 入学者募集要項 入学者選抜実施要項(推薦選抜・学力選抜) 入学者選抜委員会議事概要 | 1. 令和7年度入学者選抜において、募集要項にAPを記載し、出願資格に「科学技術に関する興味があること」を明記している。推薦選抜では「内申点の傾斜配点」およびAPを確認した面接点の点数化を行い実施している。学力選抜では数学・理科・英語に傾斜配点を行い実施している。令和8年度入学者選抜についても同様に実施する予定である。 2. 点検項目は教務委員会で確認している。今後、入学者選抜委員会で確認する予定である。 | 90 | 5 | |

| | | | | | | | | | | |
|----------------------------|----------------|-----------|--|---|---|--|---|---|-----|---|
| 6. アドミッション・ポリシーに沿った学生の受け入れ | 準学士課程の学生の受け入れ※ | 39 | 入学者が、アドミッション・ポリシーに沿っているか検証し、その結果を入学者選抜の改善に役立っているか。 | 教務委員会(教務主事) 入学者選抜委員会(教務主事) | 1. 入学者がAPIに沿っているか検証しているか。 2. 検証結果を入学者選抜の改善に役立っているか。 3. 点検事項の確認・検討をしているか。 | 本校への入学に関するアンケート 第3回教務委員会議事概要 入学者選抜委員会議事概要 | 1. 教務委員会で入学者に対して本校への入学に関するアンケートを実施して、入学者はAPIに沿って入学していることを確認した。この他、新入生の専攻選択調査においてアンケートを実施して、希望する系の選択およびその系において学びたい内容に関するコメントにより、工学に関心がある学生が入学していることを確認している。 2. 教務委員会で調査した結果を入学者選抜委員会に報告した。今後、推薦選抜における質問事項への反映など、入学者選抜の改善に役立てる予定である。 3. 点検項目は教務委員会で確認している。今後、入学者選抜委員会で確認する予定である。 | 90 | 5 | |
| | | 40 | 受験者数増加対策は効果的に行われ、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。※ | 入試広報室(室長) 広報企画室(総務主事) 男女共同参画推進室(室長) 入学者選抜委員会(教務主事) | 1. 受験者は増加したか。 2. 受験者数増加対策を検討しているか。 3. 受験者数増加対策を実施しているか。 4. 活動の検証をしているか。 5. 実入学者数は適正であるか。※ 6. 点検事項の確認・検討をしているか。 | 入学者選抜委員会議事概要 入試広報室議事概要 ホームページ広報資料 | 1. 令和6年度入学者選抜の志願倍率1.18倍(236名)に対して、令和7年度は1.14倍(227名)と低下した。長野県の高校入学志願者第1回予定数調査(10月実施)では、令和7年度志願予定者203名に対して、令和8年度は207名に微増した。これに県外からの志願者が追加される見込みである。(令和8年度入学者選抜の志願者増加に向けて活動中) 2. 令和6年度に実施した対策に加えて、オンライン学校説明会の新設(6回)、県内各地での学校説明会の開催地増加(5→6)、KOSEN FESへの新規出展(東京・大阪)、高専模試の実施回数増加(1→2)、入学者選抜制度の見直しなどを検討している。 3. これまでに、夏のオープンキャンパス、秋のオープンキャンパス、県内各地の学校説明会(6地区)、オンライン学校説明会6回、進学説明会、KOSEN FES 東京会場・大阪会場への出展、高専模試2回を実施した。(12月現在) 4. 各活動に対して参加者アンケートを行うとともに、入試広報室会議を定期的に開催して実施の振り返り、今後の計画を検証している。次年度に向けて、オープンキャンパスの実施回数・実施時期・実施方法の見直しを検討している。 5. 定員200名に対して202名(充足率1.01倍)が入学しており、適正である。(※令和8年度入学者について、確定後に記入) 6. 点検項目は入試広報室で確認・検討している。 | 90 | 4 | |
| | 専攻科課程の学生の受け入れ※ | 41 | アドミッション・ポリシーに沿って適切な入学者選抜方法が適切に実施されているか。※ | 専攻科運営委員会(専攻科長) 入学者選抜委員会(専攻科長) | 1. APIに基づき入学者選抜を実施しているか。※ 2. 点検事項の確認・検討をしているか。 | 【収集する資料の例】 入学者選抜委員会、専攻科運営委員会議事概要 入学者募集要項(推薦・学力)など | 1. 募集要項のAPを記載し、推薦選抜および学力選抜の面接時にAPIについて確認を行っている。 2. 点検事項の確認は随時行っている。 | 100 | 5 | |
| | | 42 | 入学者が、アドミッション・ポリシーに沿っているか検証し、その結果を入学者選抜の改善に役立っているか。 | 専攻科運営委員会(専攻科長) 入学者選抜委員会(専攻科長) | 1. 入学者がAPIに沿っているか検証しているか。 2. 検証結果を入学者選抜の改善に役立っているか。 3. 点検事項の確認・検討をしているか。 | 【収集する資料の例】 専攻科運営委員会、入学者選抜委員会議事概要 新入生アンケート結果など | 1. 新入生理解度アンケートを実施、入学者全員から回答を得た。 2. 入学者理解度アンケート結果を専攻科運営委員会、執行会議で共有した。入学者選抜委員会での情報共有はこれからである。 3. 点検事項の確認は随時行っている。 | 80 | 4 | |
| | | 43 | 受験者増加対策は効果的に行われ、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。※ | 専攻科運営委員会(専攻科長) 入学者選抜委員会(専攻科長) | 1. 受験者数増加対策を検討しているか。 2. 受験者数増加対策を実施しているか。 3. 活動の検証をしているか。 4. 実入学者数は適正であるか。※ 5. 点検事項の確認・検討をしているか。 | 【収集する資料の例】 入学者選抜委員会、入試広報室、専攻科運営委員会議事概要 専攻科説明会資料 ホームページ広報資料 など | 1. 昨年度、専攻科の説明会を本科第4学年で実施している。 2. 広報などを通じて受験者の増加対策を検討する。 3. 活動の検証については、次年度の受験者の数で確認している。その点で昨年度に比べ受験者が減少している。 4. 現状では適正と考えているが、学力選抜の確約書の提出期限を持って回答する。 5. 点検事項の確認は随時行っている。 | 80 | 4 | |
| | 7. 研究活動の状況 | 研究体制と支援体制 | 44 | 研究体制及び支援体制が適切に整備され、機能しているか。 | 研究推進委員会(研究主事) | 1. 研究活動に関する基本方針が定められているか。 2. 研究推進委員会が設置されているか。 3. 研究倫理委員会が設置されているか。 4. 点検事項を再検討しているか。 | 【収集する資料の例】 研究活動基本方針 研究推進委員会、研究倫理委員会規則 研究推進委員会、研究倫理委員会議事概要 など | 研究活動における基本方針(校長裁定)をベースとして活動をしている。今年度の目標値を、下記のように設定。(機構本部に合わせた設定) ・科研費保有率(代表)が30%以上 ・科研費全種目平均で、採択率は17%(申請者6名中1名採択) ・基盤研究(B)以上の新たな採択件数を15件以上 ・科研費採択実績がない若手、新規着任教員の獲得に向けたサポート ・オープンラボの3社目の共同研究の取り組みをサポートし、共同研究契約を取りまとめた。 ・オープンラボの開所検討中の企業と継続打ち合わせをおこない、来年度4月より2社(吉田工業、TOTOKU)の設置が確定した。 ・研究倫理委員会にて、申請のあった3件を承認している。 ・研究倫理委員会の申請時のチェックシートを見直しを行っている。 | 100 | 5 |
| 研究活動の成果 | | 45 | 研究活動の目的等に沿った成果が得られているか。 | 研究推進委員会(研究主事) | 1. 研究業績一覧を発行し、研究状況の確認を行っているか。 2. 学生による学会発表件数、学生が関与する共同研究の実施状況などを確認しているか。 3. 点検事項を再検討しているか。 | 【収集する資料の例】 研究推進委員会議事概要 教育研究報告(旧紀要)、シーズ集 など | 研究推進委員会で、各系の研究推進状況の把握をどのように行うか7月8日の研究推進委員会で議論したが、継続検討となった。 ・シーズ集作成スケジュール通りに発行した。 ・教育研究報告書スケジュール:2月公募、4月末申し込み締め切り、5月20日原稿締め切り、6月30日掲載完了 今後の掲載方法について、機構本部からの指示があるとのこと研究協力にて、確認を頂き、その後委員会で議論予定。 ・学生発表会の場を善バレミニ学会にて実施。(11月26日) 秋山先生の特許出願に関するを研究推進委員会にて承認した。 ・高速信号伝送研究会の学生発表会を開催予定(3月20日) | 90 | 5 | |

| | | | | | | | | | | |
|------------------|----------------------|--|---|---|---|---|---|-----|---|--|
| | 研究活動の改善 | 46 | 研究活動等の実施状況や問題点を把握し、改善を図っているか。 | 研究推進委員会(研究主事) | 1. 研究推進委員会にて研究活動推進に関する事項を検討しているか。 2. 点検事項を再検討しているか。 | 【収集する資料の例】 研究推進委員会議事概要 科研申請状況、研究プロジェクト資料 など | プロジェクト申請受付締め切り6月20日、研究目標の認識合わせとわせて、7月8日の推進委員会にてプロジェクトの申請を受け付け、承認された。 研究倫理委員会の在り方を検討し、申請時に用いるセルチェックリストの充実をおこない、組織の項理化を検討している。 | 90 | 5 | |
| 8. 地域貢献活動等の状況 | 地域貢献活動の計画 | 47 | 地域貢献活動が適切に定められ、計画的に実施されているか。 | 地域共同テクノセンター(研究主事) 広報企画室(総務主事) | 1. 地域貢献の目的を定めているか。 2. 活動計画を定めているか。 3. 計画に沿って実施しているか。 4. 点検・評価手法を再検討しているか。 | ・テクノセンター運営会議議事録 ・サイエンスツアー、サイエンスライブ募集 ・第1回広報企画室会議議事概要 | ・テクノセンター運営会議：年間スケジュールの確認及び技術振興会の総会運営などの確認を実施。 ・計画通りに実施されていることをテクノセンター会議にて確認した。 ・善光寺パレミニ研究会の計画と内容を地域の関係機関と連携して開催した。(予定通り11月26日に開催) ・高速信号伝送評価研究会を開催予定(12月12日) ・地域企業に求められる分野、内容を調査し、出前講座の改善とテクノ講座のテーマ計画に反映中。 | 90 | 5 | |
| | 地域貢献活動の成果 | 48 | 地域貢献活動の目的等に沿った成果が得られているか。 | 地域共同テクノセンター(研究主事) 広報企画室(総務主事) | 1. 成果の点検手法が定められているか。 2. 点検手法に沿って成果の確認が行われているか。 3. 点検・評価手法を再検討しているか。 | 【収集する資料の例】 地域共同テクノセンター、広報企画室議事概要 テクノセンターセミナー、サイエンスツアー等アンケート結果 など | ・地域共同テクノセンターにて実施している社会人対象とした講習会などは、開催後のアンケートにて、内容の振り返りと、テーマ・内容のチェック実施、次年度の開催計画に反映している。 ・サイエンスツアー実施後アンケートより、サイエンスツアー実施が地域への貢献が確認できている。 ・テクノ講座の利用頻度が高い企業訪問をおこない、必要とされる講座の確認を実施中(テクノセンター特命安藤先生) | 90 | 5 | |
| | 地域貢献活動の改善 | 49 | 地域貢献活動の実施状況や問題点を把握し、改善を図っているか。 | 地域共同テクノセンター(研究主事) 広報企画室(総務主事) | 1. 成果の点検手法が定められているか。 2. 点検手法に沿って成果の確認が行われているか。 3. 点検・評価手法を再検討しているか。 | ・第1回広報企画室会議議事概要 ・第3回目地域共同テクノセンター運営会議議事録 | ・昨年度の活動を確認し、本年度の活動を計画 ・テクノ講座、研究会の開催後のアンケート内容や受講者のご意見を伺い見直しを検討 ・テクノセンターの講習会利用率の高い企業から、ヒアリングを実施している。個別の出前講座の希望があり、内容など調整中。 ・サイエンスツアー実施後アンケートより、サイエンスツアーの課題の把握を行っている。 ・地域企業の抱える困りことを確認中(テクノセンター特命：安藤先生) | 90 | 5 | |
| 9. 財務及び管理運営と情報公開 | 財務関係 | 50 | 適切な収支に係る計画等が策定され、関係者に明示されているか。 | 総務課(事務部長) | 1. 効率的・効果的な収支計画(見積)を策定しているか。 2. 学内会議等で予算配分方針を周知しているか。 3. 点検事項を再検討しているか。 | 1. 予算配分方針 2. 予算配分 | 1. 6月19日の執行会議にて予算配分方針案等が承認された。 2. 7月3日の運営会議で予算配分方針・予算配分の報告を行った。 3. 7月3日の運営会議の資料をグループウェアの議事概要として掲載した。 | 100 | 5 | |
| | | 51 | 適切に予算が配分され、その執行状況の確認が行われているか。 | 総務課(事務部長) | 1. 予算配分方針に基づき、適切な予算配分をしているか。 2. 定期的に、予算執行状況を確認しているか。 3. 点検事項を再検討しているか。 | 1. 予算配分方針 2. 予算配分 3. 予算執行集計表 4. 予算差引簿 | 1. 6月19日の執行会議にて予算配分方針・予算配分が承認された。 2. 定期的に執行状況を確認し、執行率が低い場合は執行予定等を確認し、早期執行を促していた。 | 100 | 5 | |
| | | 52 | 適切に予算が執行され、その結果が公表されているか。 | 総務課(事務部長) | 1. 定期的に予算執行状況を把握しているか。 2. 決算状況について、HP等で公表しているか。 3. 点検事項を再検討しているか。 | 1. HP・学校要覧(財務状況) ・収入・決算額 ・外部資金受入状況 ・科学研究費交付決定状況 | 1. 予算配分承認後、定期的に予算執行状況の把握を行った。 2. 6月末にホームページへ前年度の財務状況の公表を行った。 | 100 | 5 | |
| | 管理運営 | 53 | 各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し、効果的に活動しているか。 | 総務課(事務部長) | 1. 時宜に応じた事務組織等の見直しを行っているか。 2. 事務組織等の人員配置などについて定期的に点検・確認しているか。 3. 教育改善委員会で各種委員会の活動状況の点検を行っているか。 4. 点検事項を再検討しているか。 | 内部組織規則、委員会規則 校務分掌一覧 事務組織および事務分掌規則 委員会活動状況の点検結果(教育改善報告書) | 1. 第2四半期頃より次年度の事務組織等の人員配置を検討し、必要に応じて人員配置の見直しを行った。 2. 事務組織の人員配置の検討材料の一つとして、半期ごとの業績評価時における職員面談を通じて、現在の業務状況なども確認した。 3. 年度末に教育改善委員会で各種委員会・センター等が適切に活動しているか点検を行った。(令8年3月「令和7年度教育改善報告書」) | 100 | 5 | |
| | | 54 | 情報セキュリティを含む危機管理等の安全管理体制が整備され、規則に沿った運用がなされているか。 | 執行会議(総務主事) 総務課(事務部長) | 1. 安全管理規則が定められているか。 2. 規則に沿って研修が行われているか。 3. 規則に沿った安全管理対応が行われているか。 4. 点検・評価手法を再検討しているか。 | 1. リスク管理規則 2. 情報セキュリティ管理・推進 規則 3. 防災マニュアル 3. 情報セキュリティ利用者規則、教職員規則 | 1. 教職員向け誓約書及びセルフチェックリスト実施(5/30期限)済み 2. 情報セキュリティe-Learningを9/1~10/10で実施済み。 3. 情報セキュリティインシデント対応訓練を10/24、11/10に実施した。 4. 情報セキュリティ推進委員会を開催(4/24、5/28、6/25、7/30、10/3、10/29、11/25、12/26、1/27、2/25、3/??)し、情報セキュリティの管理を行っている。 5. R7.5に防災マニュアルを更新した。 6. R7.5に防災訓練を行い、年度内に防火訓練を実施予定。 7. 令和7年度情報セキュリティ監査を9/29~30で受審した。また、監査員からの指摘事項に対して2/6までに対応済み。 8. 点検事項の検討を行っている。 | 100 | 5 | |
| | | 55 | 外部資金を積極的に受入れる取組を行っているか。 | 研究推進委員会(研究主事) | 1. 外部資金の公募案内を校内に周知しているか。 2. 科学研究費申請書の添削支援を実施しているか。 3. 特許出願に関する支援を実施しているか。 4. 点検事項を再検討しているか。 | 【収集する資料の例】 研究推進委員会議事概要 科研、研究プロジェクト申請状況 など | ・科研費申請のアンケート調査6月20日まで、7月科研費申請に向けたサポート体制の決定を7月8日の研究推進委員会にて実施。 外部資金獲得額に対する対策について、研究推進委員会にて(オープンラボ研究費、助成金、寄附金)の対策を検討する予定。 | 80 | 4 | |
| 56 | 外部の教育資源を積極的に活用しているか。 | 教務委員会(教務主事) 専攻科運営委員会(専攻科長) 地域共同テクノセンター(研究主事) | 1. 外部の教育資源を積極的に活用しているか。 2. 点検・評価手法を再検討しているか。 | 実務訓練企業説明会実施要項 技術振興会総会議案書 第3回教務委員会議事概要 | 1. 企業や機関の協力のもと、インターンシップ事業を行っている。また、エンジニアリングデザイン実践では技術振興会会員企業に協力を受けて実施している。 2. 点検項目は教務委員会で確認している。 | 100 | 5 | | | |

| | | | | | | | | | |
|------|----|---|--------------------------|--|------------------------|---|-----|---|--|
| | 57 | 管理運営に関わる職員の資質の向上を図るための取組が組織的に行われているか。 | 総務課(事務部長) | <ol style="list-style-type: none"> 1. 定期的にSD研修会などを実施しているか。 2. その他、職員の資質向上を図る取組を実施しているか。 3. 点検事項を再検討しているか。 | SDIに関する要項 SD研修会実施一覧 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 高専機構主催の初任職員研修会(4/16~18)に1名参加 2. 高専機構主催の初任教員研修会(5/15~16)に4名参加 3. 高専機構主催の令和7年度学務担当者向けオンデマンド研修(5/15~8/15)に1名参加 4. 9/4ストレスチェック集団分析結果説明会に教員9名、事務系職員6名、技術系職員3名参加、9/19 説明力向上研修に36名参加 5. 長野高専主催の職員海外研修(シンガポールへの学生の海外研修に同行9/1~9/5)に1名参加 6. 長野高専主催の職員海外研修(シンガポールへの学生の海外研修に同行9/1~9/5)の研修報告会(10/14)を開催し、教員3名、事務系及び技術系職員20名参加 7. ハラスメント防止に関する研修(12/8~3/6)実施済み(全教職員対象) | 100 | 5 | |
| 情報公開 | 58 | 教育情報(学校教育法施行規則の事項を含む)が公表されているか。また、タイムリーな情報発信が行われているか。 | 広報企画室(総務主事) 総務課(事務部長) | <ol style="list-style-type: none"> 1. 文部科学省令第15号に沿って情報公開が行われているか。 2. 公開状況の点検・整備が行われているか。 3. 点検・評価手法を再検討しているか。 | 長野高専ホームページ 教育情報 | <ul style="list-style-type: none"> ・Researchmapの記載状況の点検を実施した。(5月) ・月次行事の発信を開始した。(7月) ・SNS利用を定義し、学校公認のものをホームページに掲載した。(9月) ・ホームページの情報公開の状況を随時点検し、改善に努めている。 | 100 | 5 | |

(※は必須事項)

達成率
点検事項
の実施実
績に基づ
いて達成
率を算定
する

自己評価

- 1 達成率 0~20%
- 2 達成率 21~40%
- 3 達成率 41~60%
- 4 達成率 61~80%
- 5 達成率 81~100%

機関別認証評価受審報告

令和7年度参与会

令和8年2月26日

機関別認証評価受審報告

- 7年ごとに法令に基づき認証を受けるもの
- 審査項目（4巡目）
 - 領域1 教育の内部質保証システム
 - 領域2 教育組織及び教員・教育支援者等
 - 領域3 学習環境及び学生支援等
 - 領域4 財務基盤及び管理運営
 - 領域5 準学士課程の教育活動の状況
 - 領域6 専攻科課程の教育活動の状況
- 審査機関
(独) 大学改革支援・学位授与機構

前回（H30）指摘事項

- 領域 1
 - 学校教育法第109条第1項に規定される学校の総合的な状況についての定期的な自己点検・評価を実施するための基準・項目等の設定は十分であるとはいえない。
 - 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）には、求める学生像は明示されているものの、そのような学生を実際に受入れるための「入学者選抜の基本方針」が明確に示されていない。
- 領域 5
 - 一部の授業科目において、複数年度にわたり同一の試験問題が出題されている。また、一部の授業科目において学習成果の評価に不適切な点がみられる。

これまでの対応

- 領域 1
 - 自己点検システムを構築
 - 自己点検項目・評価基準の設定
 - 3つのポリシー（DP, CP, AP）の確認
- 領域 5
 - 成績評価、試験問題類似性の点検は3年で全科目を実施するよう規則化
 - 委員会内の慣例的点検を規則化

評価結果 適合 (1/30 通知)

<改善を要する点>

- 高圧ガス管理規程が整備されていない。(基準 4 - 2)
- 一部の学修単位科目において、授業時間外の学修についての評価が適切に行われていない。(基準 5 - 6)
- 一部の授業科目において、科目内で端数処理の方法が統一されておらず、公平な成績評価がされていない。(基準 5 - 6)

評価結果 適合 (1/30 通知)

<優れた点>

- 当校の支援団体である技術振興会は、会員企業約400社を擁し、地域の会員企業と結び、企業活動の促進や技術的課題の共同研究など、継続的に送り出し、評価センターを活用し、共同研究や高速伝送信号評価センターの研究報告も行われ、地域連携活動が活発に展開されている。(基準4-2)
- 本科1年次の全系共通必修科目として、一般科目「ウェルネス・アウトドア」を多様な学生関係構築を促す独創的な取組として開講し、従来の保健・体育を総合進化させている。(基準5-3)
- 国際交流センターにより、海外大学等との協定を利用した訪問・研修に関する学生支援が行われている。令和6年度には本科2年次学生全員が研修旅行に加えて、64人の学生が海外研修に参加している。(基準5-5)

いじめ対策について

令和7年度参与会

令和8年2月26日

いじめ防止への取り組みについて

「長野工業高等専門学校いじめ防止等基本計画」を定めています。この計画は

- 「いじめ防止対策推進法」
- 「いじめの防止等のための基本的な方針」
- 「独立行政法人国立高等専門学校機構いじめ防止等対策ポリシー」
- 「独立行政法人国立高等専門学校機構いじめ防止等ガイドライン」

を踏まえて、作成されました。

いじめ防止等基本計画の構成

1. いじめの防止等のための基本的な方針

いじめの定義，いじめの禁止，基本理念，学校及び教職員の責務，学校いじめ対策委員会

2. いじめの未然防止

いじめ防止プログラムの策定，教職員の指導力向上，人権意識，道徳的実践力の向上，家庭や関係機関との連携及び学生が自主的に行う活動への支援

3. いじめの早期発見

日常生活における教職員による観察や情報交換，個人面談等の実施，相談体制の整備や相談機関の周知，早期発見・対処マニュアルの策定

いじめ防止等基本計画の構成

4. いじめに対する対応

いじめの発見や相談を受けたときの対応，事実調査，組織的対応，いじめを受けた学生やその保護者への支援，いじめた学生やその保護者への助言，いじめを行った学生への懲戒，継続的な指導

5. インターネット等でのいじめへの対応

未然防止，早期発見，早期対応

6. 重大事態への対応

7. 実効的なPDCAサイクルの確保

8. 学校いじめ基本計画の周知

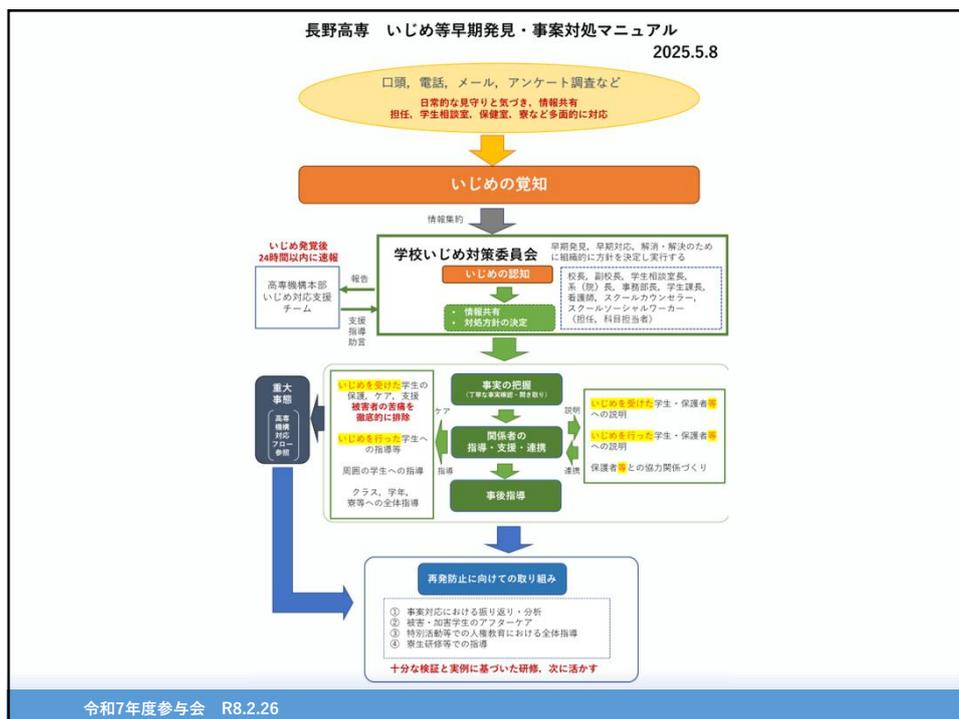
「学校いじめ対策委員会」

- いじめ防止の措置を実効的に統括する組織
 - 複数の教職員（校長、副校長、学生相談室長、各系長、院長、学生課長等）
 - 心理、福祉等に関する専門の知識を有する者
 - その他関係者（関係する学生の担任など）
- から構成される。
- 定期的（2か月に1度程度）開催している

いじめの未然防止

- 「ウエルネス・アウトドア」1年次開講科目
 - 多様な他者との協同関係づくりを学ぶ
- 学生会「いじめ防止月間」

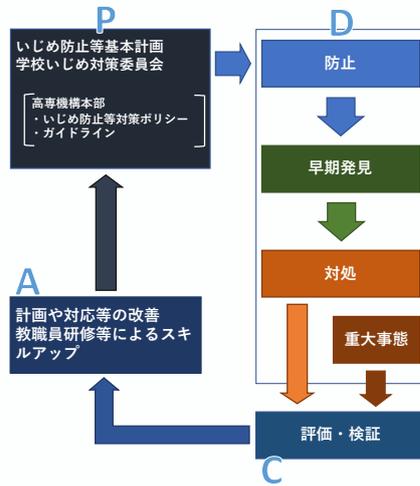




いじめの早期発見・いじめに対する対応

- アンケート（年4回）による早期発見
友人間のトラブルなど，比較的早期に発見できている
- 早期の情報共有と対応
学生相談室ミーティングや，グループウェア（GW）を校内メールを使い，情報共有を早期に実施
- 授業担当が感じた違和感の報告
授業中の孤立をGWで報告

長野高専 いじめ防止等基本計画 PDCAサイクル



防止

- 学生への道徳教育・人権教育・法教育
- 担任・寮・学生相談室等を中心とした教職員全体での見守り、指導
- 保護者、家庭、地域、外部人材等との情報共有や連携

早期発見

- 学生からの相談、通報
- アンケート、面談等による情報収集
- 家庭等からの情報提供
- 教職員による観察、気付き

対処

- いじめを受けた学生の安全確保、支援
- いじめを行った学生の指導、支援
- 双方の保護者等との連携と支援
- 外部人材の活用
- 高専機構本部への報告
- 高専機構本部いじめ対応支援チームによる支援、助言、指導

評価・検証

- 学校いじめ対策委員会による評価
- 外部評価委員会等による評価 (高専機構による評価、監事監査) (高専機構学生支援専門部会による検証) (第三者委員会等による検証)

事例

- ・ (口頭にて)